

# 「気仙沼市で暮らす女性の 仕事・生活・デジタルスキルに関する調査」 最終報告書

2024年3月29日

特定非営利活動法人ウィメンズアイ

気仙沼市

# 目次

1. 調査概要
2. 本調査の要点
3. アンケート回答者の属性
4. デジタル環境
5. パソコンスキル
6. 学びに向けて
7. 現在の仕事
8. 仕事探し
9. 現在仕事をしていない人
10. 子どもの急な預け先
11. 職場の男女の地位
12. 男女の性別役割分業に対する意識
13. 自由記述
14. 参考：地方創生に関するアンケート（一般用）気仙沼市
15. 専門家コメント

# 調査概要

本調査は、気仙沼市で暮らす女性の、希望する収入や働きやすい環境または自分らしい生活の実現に向けて、デジタル環境・スキル、就労の現状、求められる環境やサポートを明らかにすることを目的としています。

- 調査名 : 「気仙沼市で暮らす女性の仕事・生活・デジタルスキルに関する調査」  
調査主体 : NPO法人ウイメンズアイ、気仙沼市  
期間 : 2023年8月21日（月）～9月5日（火）  
対象者 : 気仙沼市在住の18歳～49歳の女性 7082人（2023年7月31日時点、外国人を含まない）  
有効送付数 : 7062  
回答数 : 1447  
有効回答数 : 1445  
回答率 : 20.5%  
調査方法 : オンライン（Googleフォーム）の二次元コードを回答者に郵送し、回答を収集。  
オンライン回答するための端末を持っていない方や、回答する際にサポートが必要な方に向けてサポートデスクを3日間開設。

- ※ 速報版と最終報告書の違いは、速報版はデジタルと仕事を中心にまとめたものであることに対し、本最終報告書は全ての質問項目のデータをまとめたものとなっています。
- ※ 自由記述は、特に意見が多かった内容を抽出しています。全ての回答については本調査の集計一覧表からご覧いただけます。
- ※ 本調査はオンライン調査であるため、インターネットが使えない人が回答しにくいなど、回答者に偏りが生じている可能性があります。
- ※ 構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない場合があります。

# 本調査の要点①

## ➤ デジタル環境

- 自分のパソコンを持っている人は5割である一方、自身が使えるパソコンが自宅にない人は3割
- 自宅でインターネットに接続できる人は9割以上。そのうち、接続端末はスマホ・携帯が9割以上でパソコンは5割のみ
- パソコンスキルを「仕事で身に付けた」人は、「正社員・正規職員」は5割、「パート・アルバイト」は2割のみ
- パソコンスキルを「学校や教室で習った」人は若い世代ほど多く、年代が高くなるほど「仕事で身に付けた」人が多い

## ➤ リスキングに関して

- デジタルやパソコンのスキルアップに興味がある人は7割を超え、その理由の7割は仕事に関連するもの
- デジタルやパソコンのスキルアップに興味がある人のうち、エクセルを使ったことがある人は9割弱、そのうち、初級レベルの操作ができる人は6～9割、中級は3～5割、上級は1～2割
- 気仙沼市であつたらいいと思う講座は、「パソコンの基礎講座」、「デザイン系の講座」、「プログラミングの講座」、「ITパスポートの資格講座」の順が多かつた
- 希望する環境やサポートについては、「受講料へのサポート」、「パソコンスキルを生かした資格取得のサポート」、「Wi-Fiがにつながるカフェやシェアスペースが増える」、「自宅でできるeラーニング講座の提供」が8割を超える
- 学ぶ際のハードルについては、「学びの時間的負荷が大きい」、「学びの機会がない」、「学びの経済的負荷が大きい」が約5割

# 本調査の要点②

- 仕事：現在仕事をしている人
  - 仕事をしている人は8割を超え、事務職と専門技術職が5割超
  - 雇用形態は正社員6割弱、パート・アルバイト2割超だが、希望する雇用形態は、正社員が7割超え
  - 2022年の平均年収は263.5万円、2023年7月の平均月収は、正社員20.4万円、契約・派遣等16万円、パート・アルバイト9.5万円
  - 希望する働き方ができる環境については、「処遇・福利厚生が充実している」が6割、「自分にとってやりがいがあると思える仕事ができる」が6割弱、同居している子どもがいる人は、上記に加えて「子育てや介護との両立支援の制度が活用できる」が5割
  - 気仙沼で仕事探しの課題については、「給料が安い」が7割、「希望する職種の求人数が少ない」が3割、「人間関係が不安」が2割
  - 子どもの急な預かりが必要な際、家族を頼る人が多い一方で、「子どもの預け先が欲しいが、ない」人が1割強
  
- 仕事：現在仕事をしていない人
  - 仕事をしていない理由は、子育てなどのケアワークのためが4割
  - 数年以内に仕事に就くことを考えている人は8割超。そのうち、希望する雇用形態は、「パート・アルバイト」が4割を超え、「正社員」希望の数を上回る
  - 希望する働き方ができる環境については、パート・アルバイトを希望する人は、「子育てなどの両立支援」が6割弱と最も多く、正社員を希望する人は、「自分にとってやりがいがあると思える仕事ができる」が6割、「処遇・福利厚生が充実している」が5割超と異なる働き方を希望

# 本調査の要点③

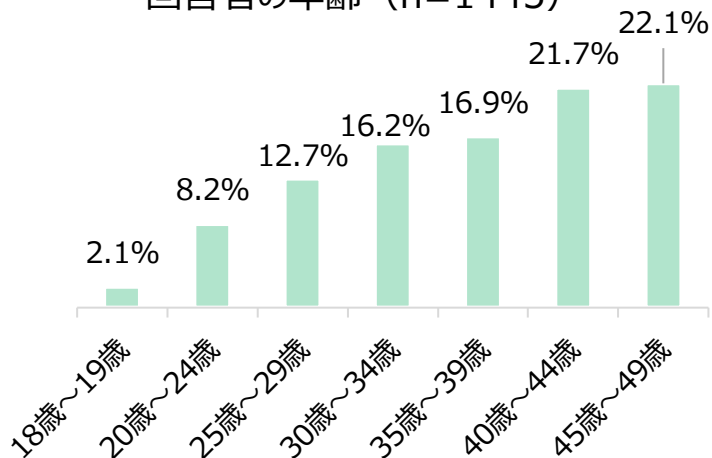
## ➤ 職場の男女の地位と性別役割分業

- 職場の「男女の地位は平等である」は5割弱、「男性の方が優遇されている」は4割
- どの年齢層からも、女性が優遇されているという回答は1割以下
- 「職場の男女の地位は平等である」と感じている人は、理容・美容、観光業、福祉介護で多い一方で、「男性の方が優遇されている」と回答しているのは、建設業、製造業（水産加工業以外）、交通・運輸、水産加工業の順で多い
- 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に「賛成」「どちらかといえば賛成」は2割強、「反対」「どちらかといえば反対」は7割強
- 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」賛成の理由は、「育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」が6割強、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が4割

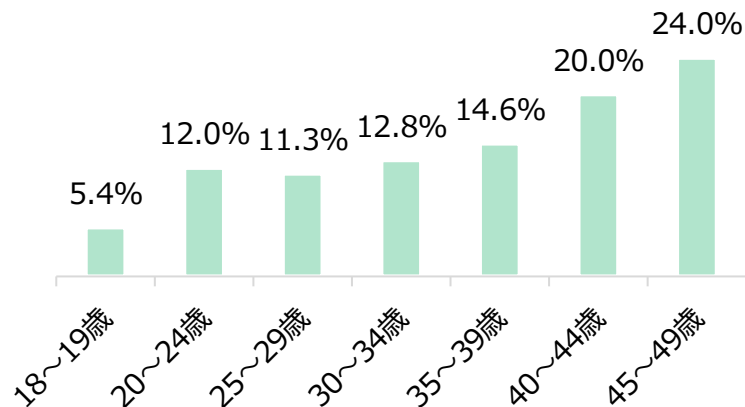
# アンケート回答者の属性①

今回の調査では、10代が2.1%、20代は20.9%、30代は33.1%、40代は43.8%を占めている。対象人口と比べて、10代は3.3%、30代は5.7%多かったが、20代は2.4%、40代は0.2%少なかった。結婚については既婚が55.4%、未婚が44.6%であった。

回答者の年齢 (n=1445)

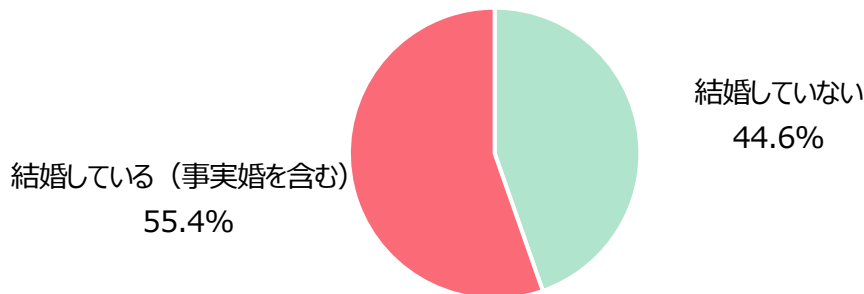


調査対象者の年齢 (n=7082)



出典：住民基本台帳 2023年7月13日時点

結婚の有無 (n=1445)

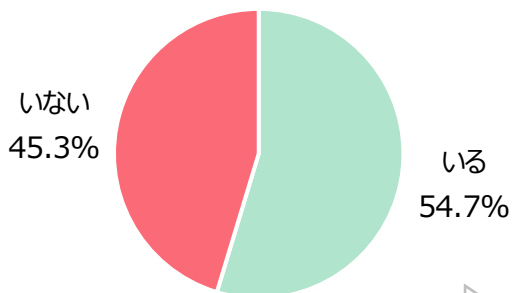


# アンケート回答者の属性②

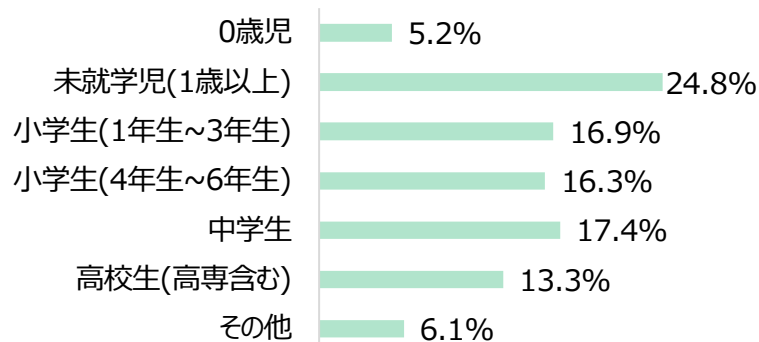
同居している子どもがいると答えた人は54.7%、いないと答えた人は45.3%であった。

子どもの年齢は、未就学児（0歳児を含む）が30%と多く、次いで中学生が17.4%、小学校低学年が16.9%、小学校高学年が16.3%、高校生が13.3%であった。1世帯あたりの子どもの人数は平均1.9人であった。

同居している子どもの有無 (n=1445)

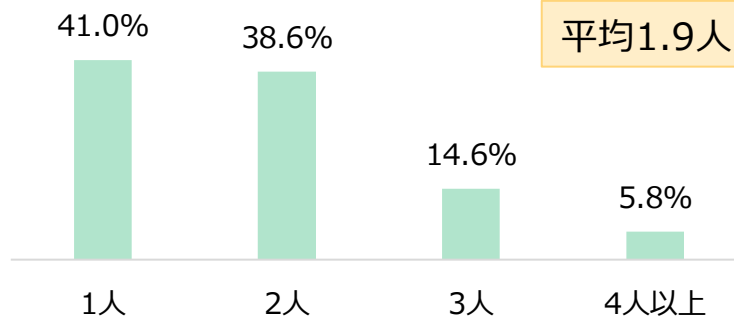


子どもの人数 (n=1490)



※「3人以上」と回答したものは3で計算

1世帯あたりの子どもの人数 (n=790)

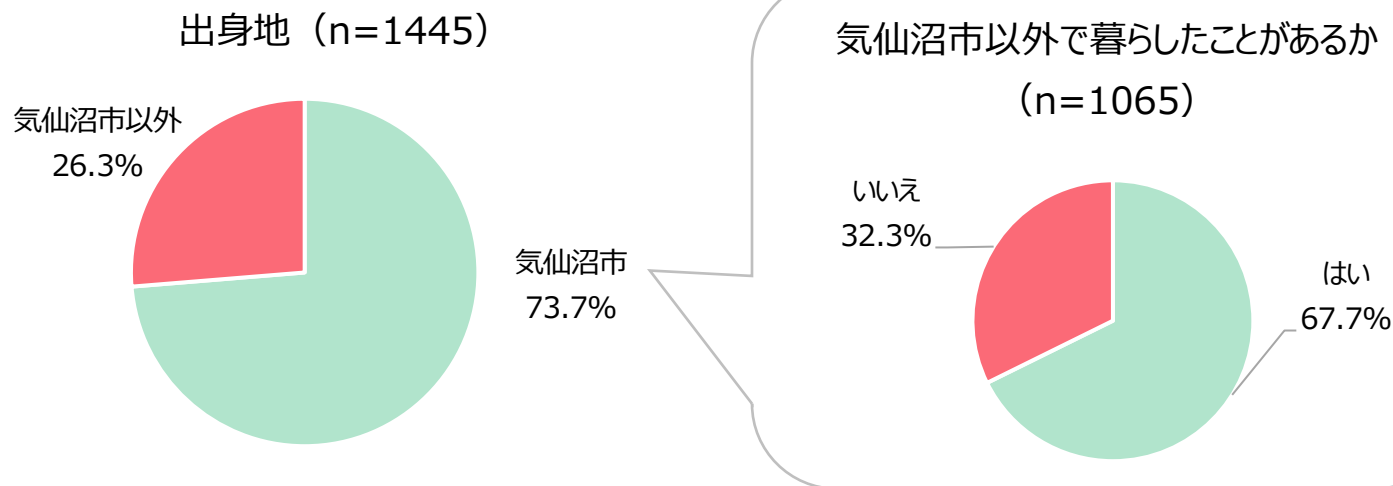




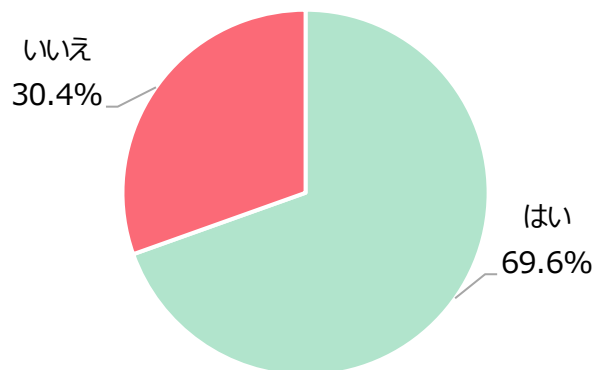
# アンケート回答者の属性③

気仙沼市出身であると回答した人は73.7%、そのうち気仙沼市以外で暮らしたことがあると回答した人は67.7%であった。

また、回答者のうち震災当時気仙沼にいた人は 69.6%であった。



震災当時気仙沼にいたか (n=1445)

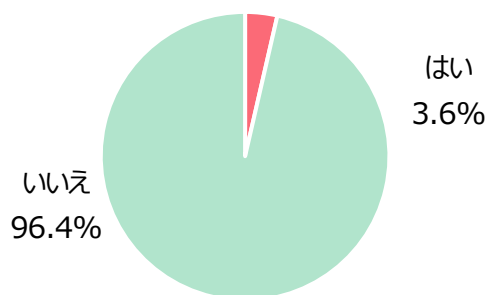


# アンケート回答者の属性④

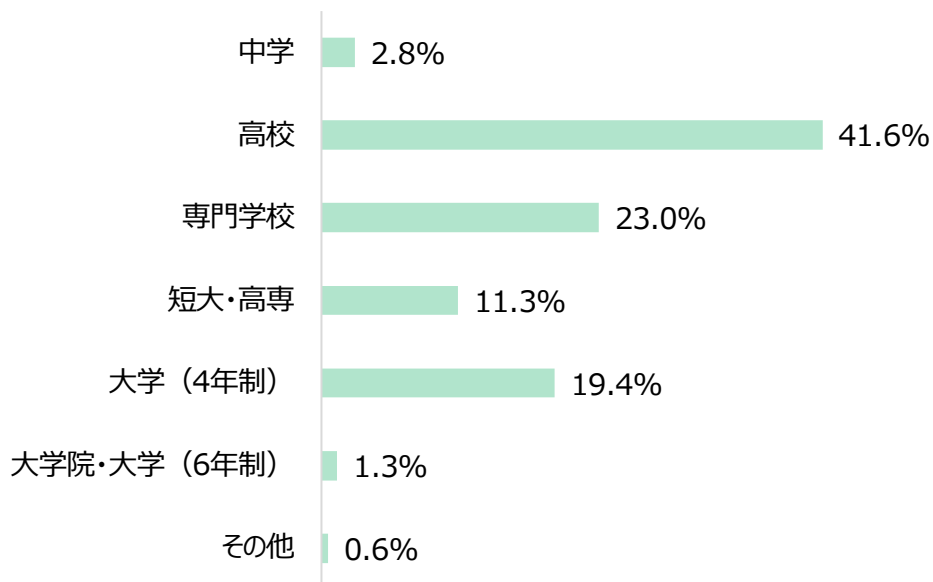
回答者のうち、現在在学中と答えた人は3.6%であった。

最終学歴は高校が41.6%と最も多く、次いで専門学校が23%、大学が19.4%、短大・高専が11.3%、中学が2.8%、大学院・大学（6年制）が1.3%であった。

在学中かどうか (n=1445)



最終学歴 (n=1445)



# デジタル環境①：パソコンの保有状況

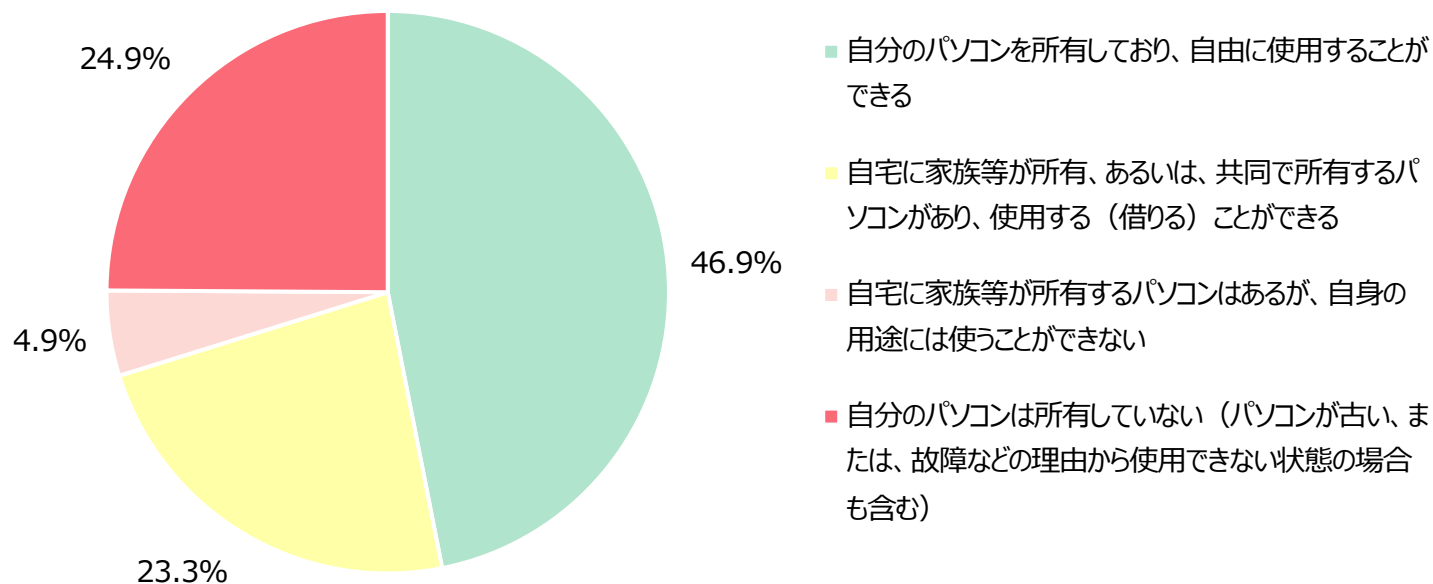
あくまで本調査の回答者に限定されるものの、自分のパソコンを持っている人は46.9%であり、家族等から借りることができる人も合わせると、自宅に使用できるパソコンがある人は全体の70.2%であった。

一方で、自宅に自身が使えるパソコンがないと回答した人は29.8%であった。

<参考①> 総務省の調査によると、パソコンの保有率は東北の平均は63.4%であった。（総務省 情報流通行政局 令和4年 通信利用動向調査報告書（世帯編））

<参考②> 気仙沼市の地方創生に関するアンケートによると、パソコンが自宅にあり使うことができると回答した人は男性が75.2%、女性が68.1%であった。（詳しくは、本報告書 p.46）

パソコンの保有状況（n=1445）

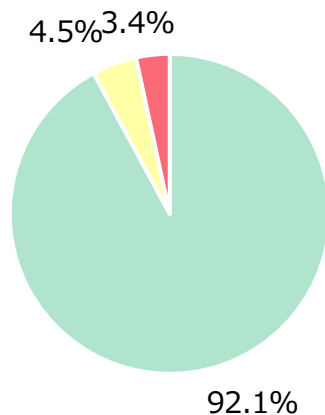


# デジタル環境②：インターネット環境

自宅でインターネットに接続できると回答した人は96.6%であった。

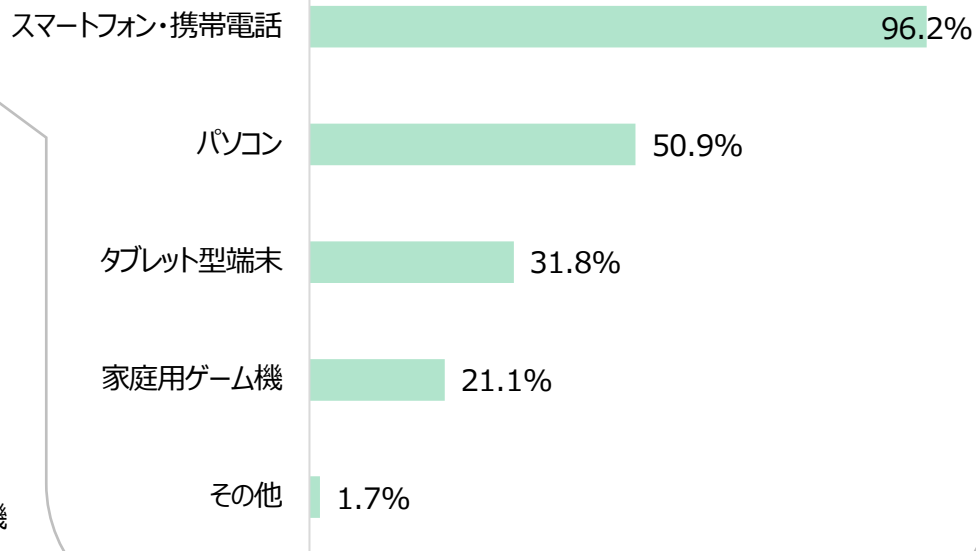
インターネット接続できると回答した人のうち、主な接続端末については、スマートフォン・携帯電話が96.2%と最も多く、次にパソコンが50.9%であった。

インターネット環境 (n=1445)



- 自宅にインターネットに接続できる回線がある (ポケットWi-Fiを含む)
- 自宅にインターネットに接続できる回線はないが、携帯等のテザリング機能を使って接続できる
- 自宅ではインターネットに接続できない

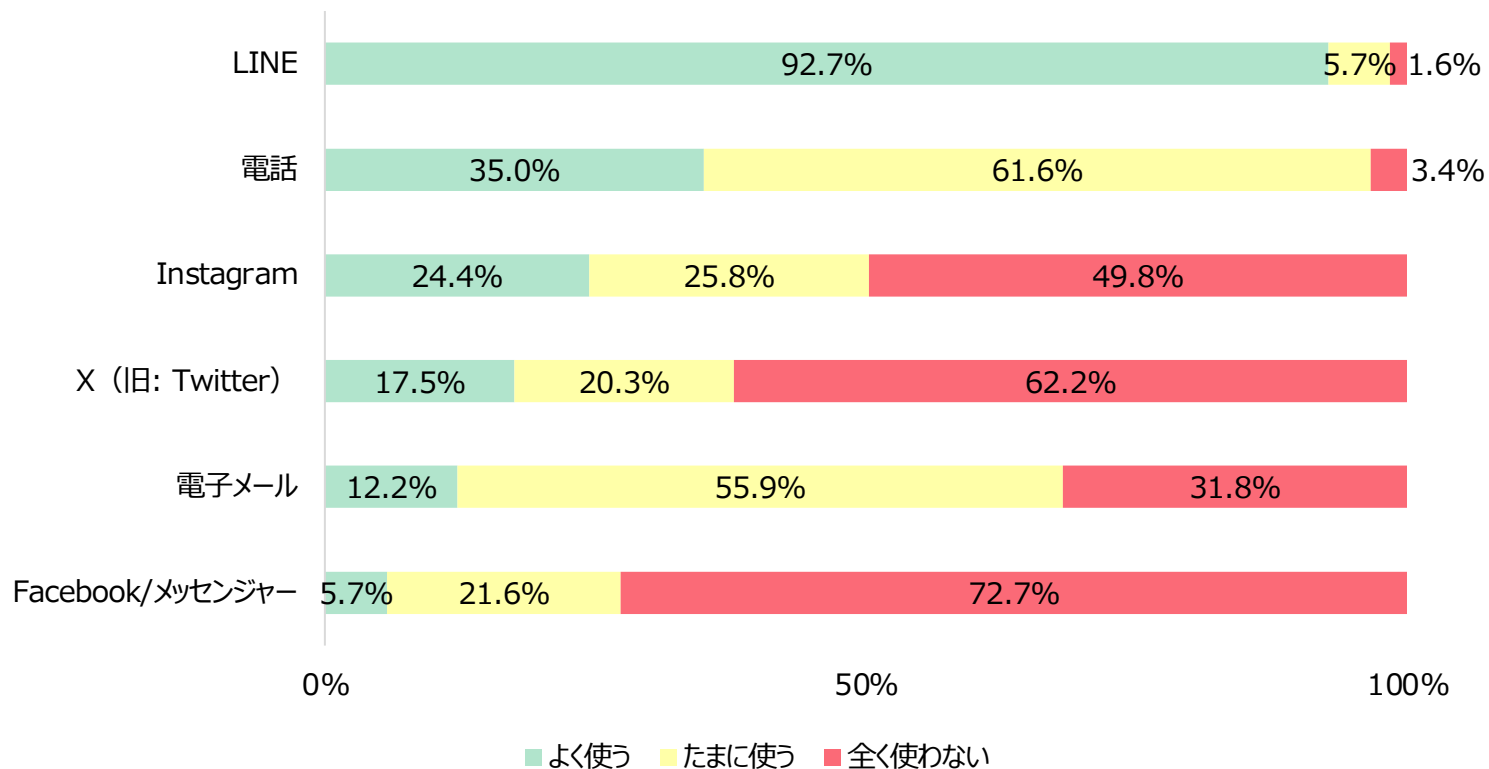
インターネットの主な接続端末  
(n=1396, 複数回答)



# デジタル環境③：連絡手段

連絡手段としてよく使うツールは、LINEが92.7%と圧倒的に多い。

連絡手段として使うツールの使用頻度（n=1445）



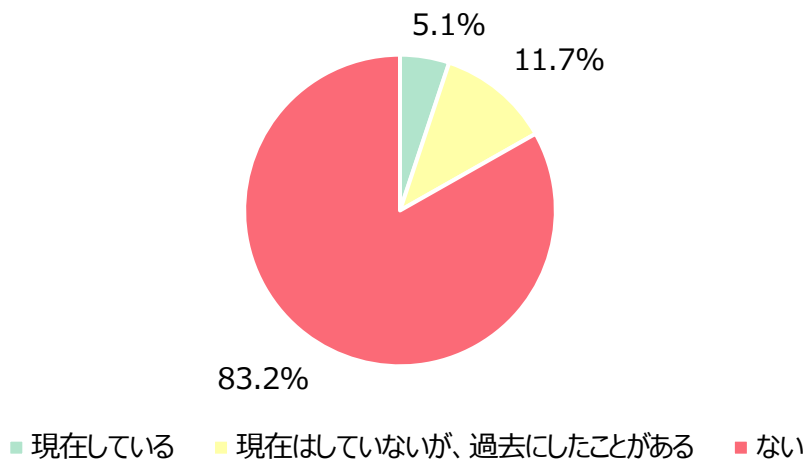
# デジタル環境④：テレワーク

現在仕事をしている人のうち、テレワークの経験があると回答した人は16.8%であった。

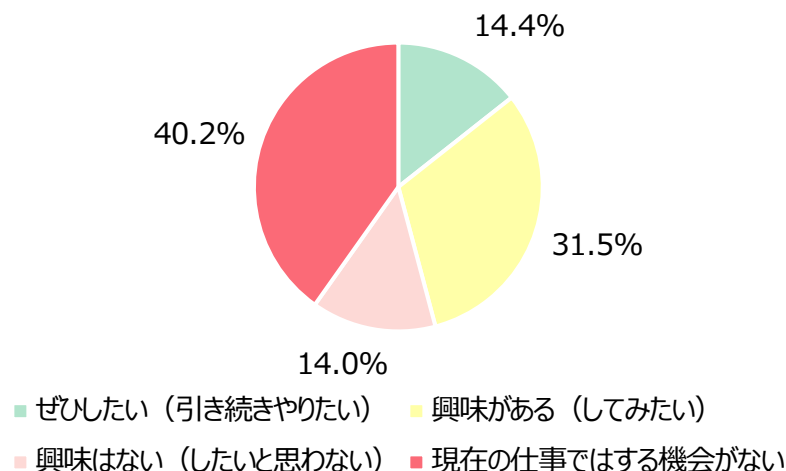
<参考> 総務省の調査によると、テレワークをしたことがある人は 19.5%であった。（総務省 情報流通行政局 令和4年 通信利用動向調査報告書（世帯編））

テレワークの希望については、「ぜひしたい」「興味がある」と答えた人が45.9%、その一方で、「現在の仕事ではする機会がない」は40.2%、「興味がない」は14%であった。

テレワークの経験（n=1232）



テレワークについてどう思うか（n=1232）

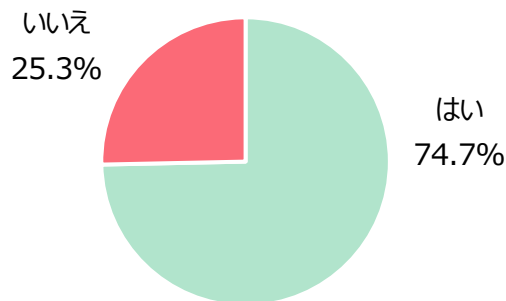


# パソコンスキル①：スキルアップへの興味

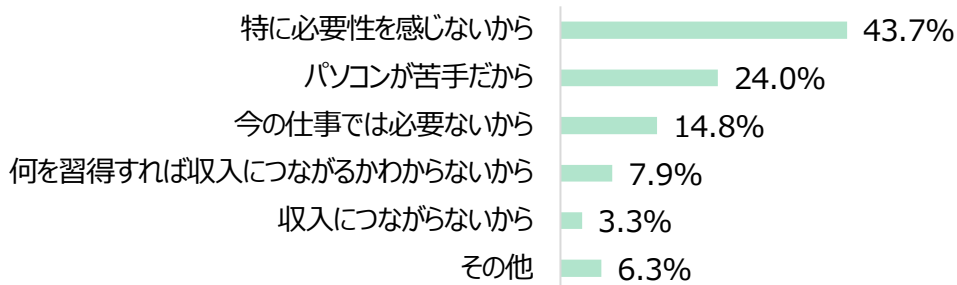
デジタルやパソコンのスキルアップに「興味がある」と回答した人は、全体の74.7%であった。  
その理由としては、「今の仕事に活かしたいから」が35.6%と最も多く、収入アップや転職／求職活動に活かしたいを含めると仕事関連の理由が約7割であった。  
「興味がない」理由としては、「特に必要性を感じないから」が43.7%、「パソコンが苦手だから」が24%であった。

デジタルやパソコンのスキルアップへの興味関心

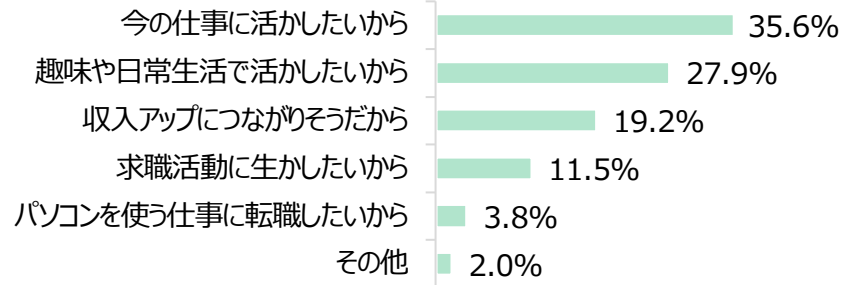
(n=1445)



興味がない理由 (n=366)



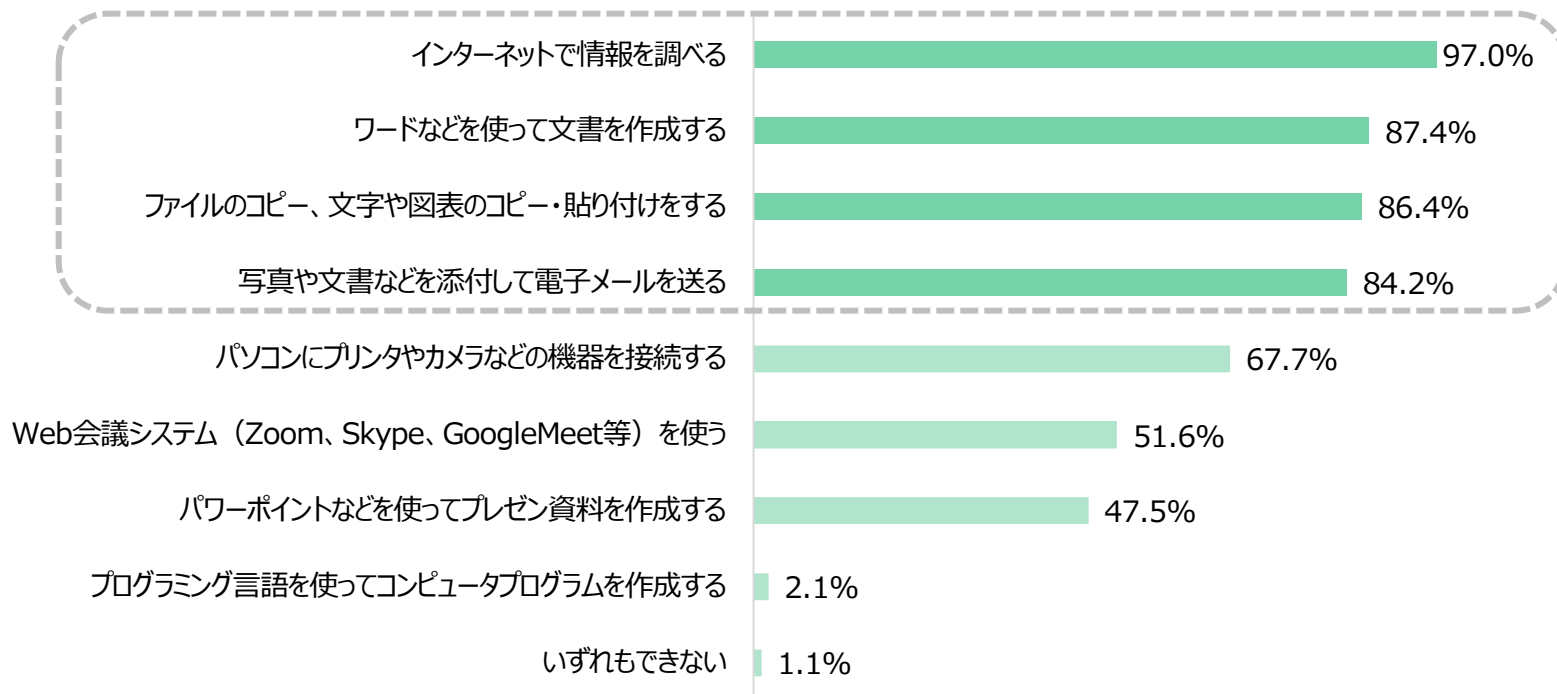
興味がある理由 (n=1079)



## パソコンスキル②：習得状況（全般）

デジタルやパソコンのスキルアップに「興味がある」と回答した人のうち、基本的操作である「インターネットで情報を調べる」「ワードなどを使って文章を作成する」「ファイルのコピー、文字や図表のコピー・貼り付けをする」「写真や文章などを添付して電子メールを送る」について、「できる」と回答した人は8割を超えた。

パソコンを使ってできること（n=1079, 複数回答）

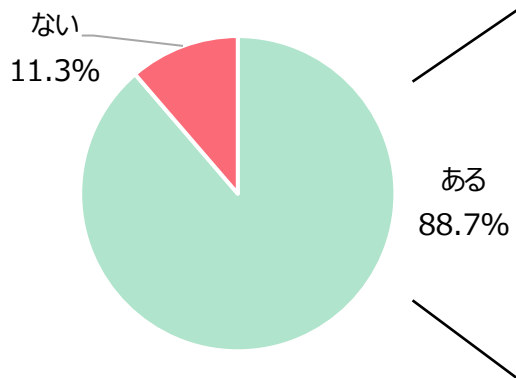




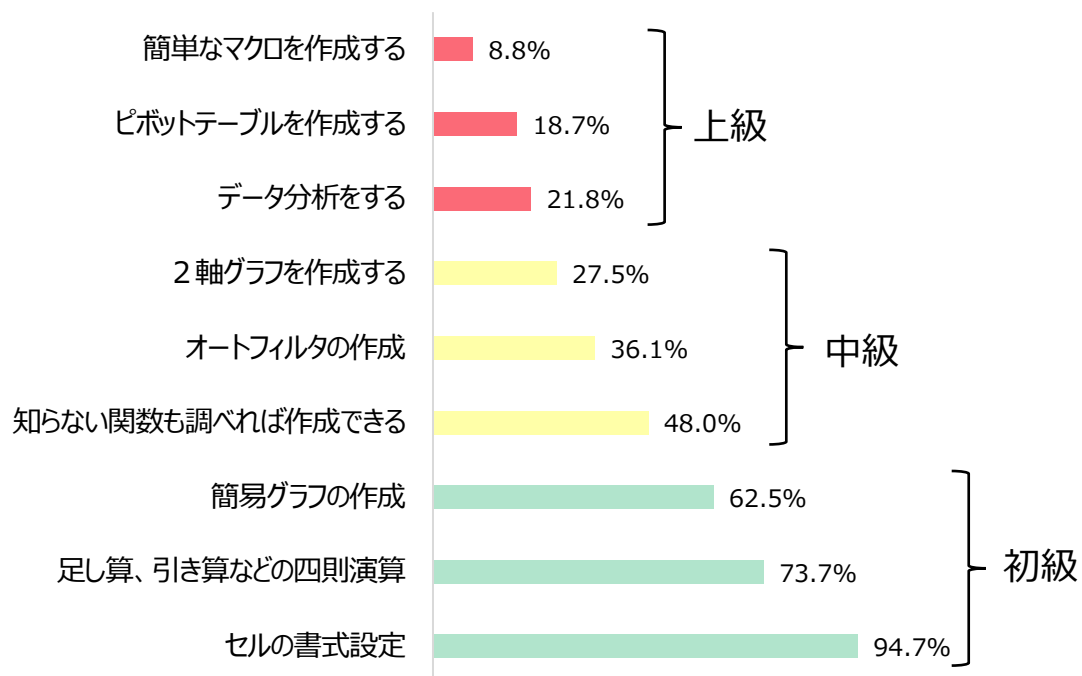
# パソコンスキル③：習得状況（エクセル）

デジタルやパソコンのスキルアップに「興味がある」と回答した人のうち、エクセルの使用経験が「ある」と回答した人は88.7%であった。また、そのうち初級レベルの操作ができる人は6割を超えた。

エクセルの使用経験（n=1079）



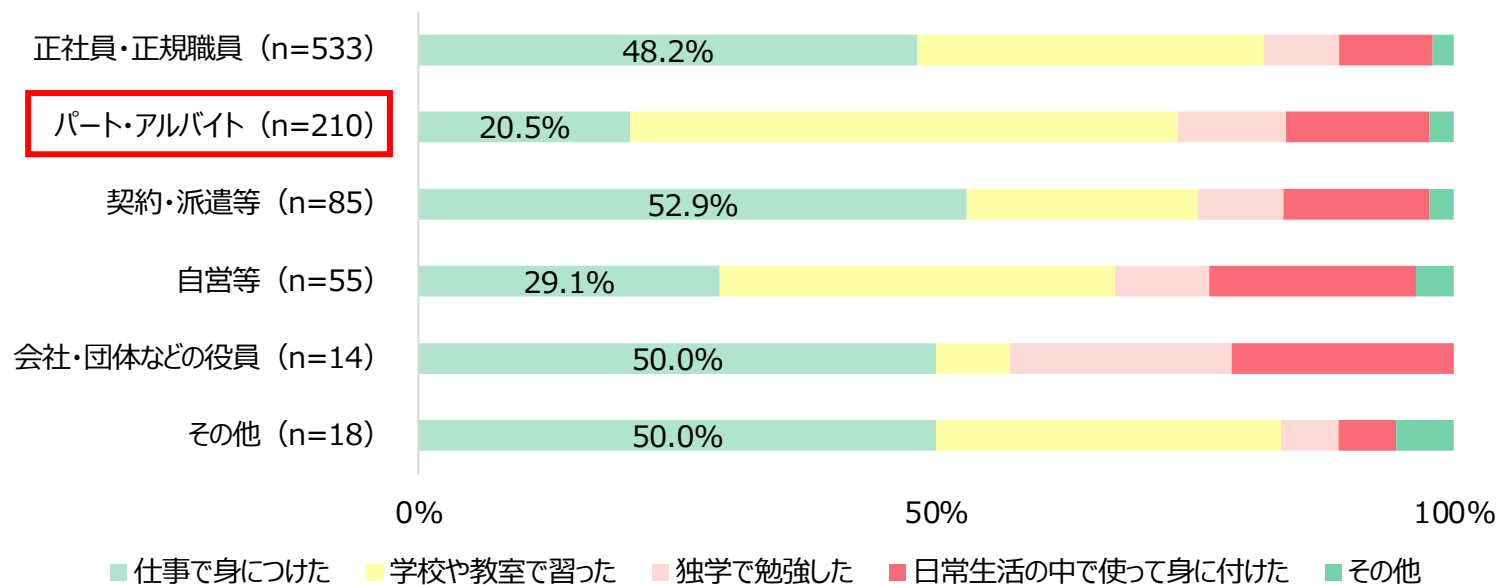
エクセルのスキル（n=957, 複数回答）



# パソコンスキル④：習得方法（雇用形態による差）

パソコンスキルをどうやって身に付けたのかについて、雇用形態別にみると、「仕事で身に付けた」と回答した人が「正社員・正規職員」では48.2%であったが、「パート・アルバイト」では20.5%と、雇用形態によって差がみられた。

スキルをどうやって身につけたか（n=915）



パート・アルバイト：パート、アルバイト  
契約・派遣等：契約社員・嘱託、臨時職員、派遣社員  
自営等：自営業、家族従事者、内職、自由業/フリーランス

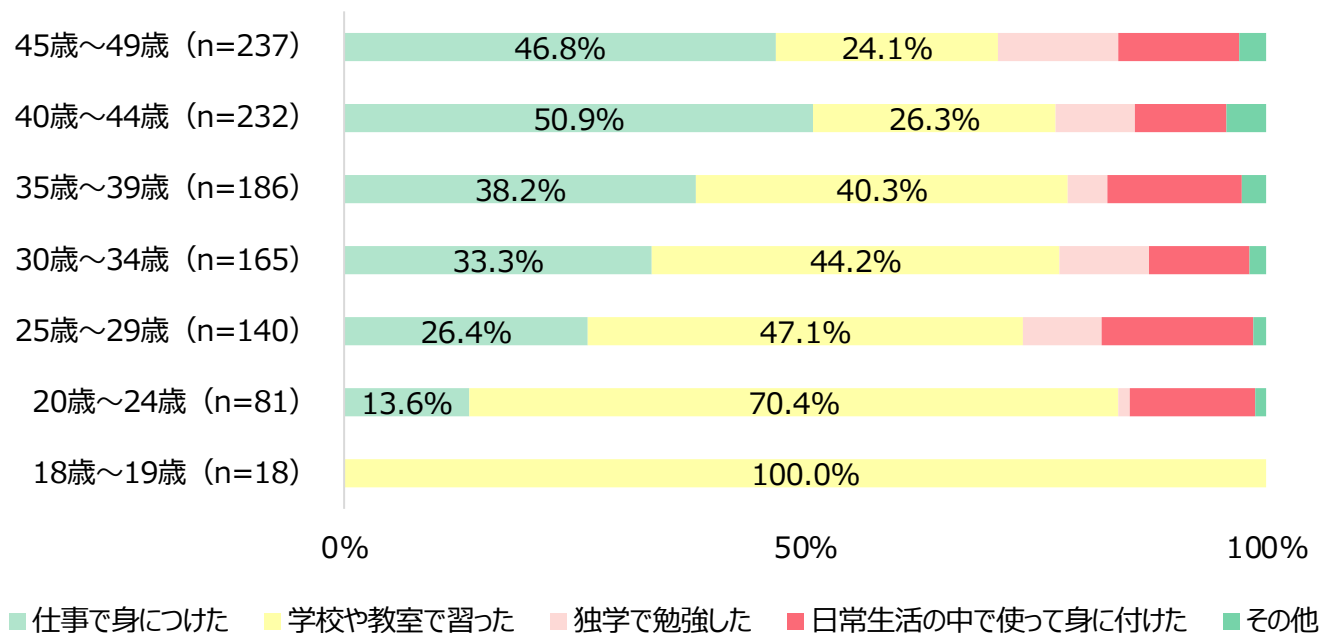
# パソコンスキル⑤：習得方法（年齢による差）

パソコンスキルをどうやって身に付けたのかについて、年齢別にみると、年齢層が低くなるほど「学校や教室で習った」人の割合が多く、年齢が高くなるほど「仕事で身につけた」人の割合が多かった。

学校のカリキュラムに情報の科目が必修化された30代以下の方は、「学校や教室で習った」と回答した割合が40%を超えている一方、40代以上の方は20%台に留まっており、大きな差が見られた。

<参考> 文部科学省によると、1998年に中学校で「情報とコンピュータ」が、高等学校で「情報」が新設され必修化されるなど、情報に関する教科・内容が必修となった。（文部科学省「教育の情報化に関する手引き」）

スキルをどうやって身につけたか（n=1059）

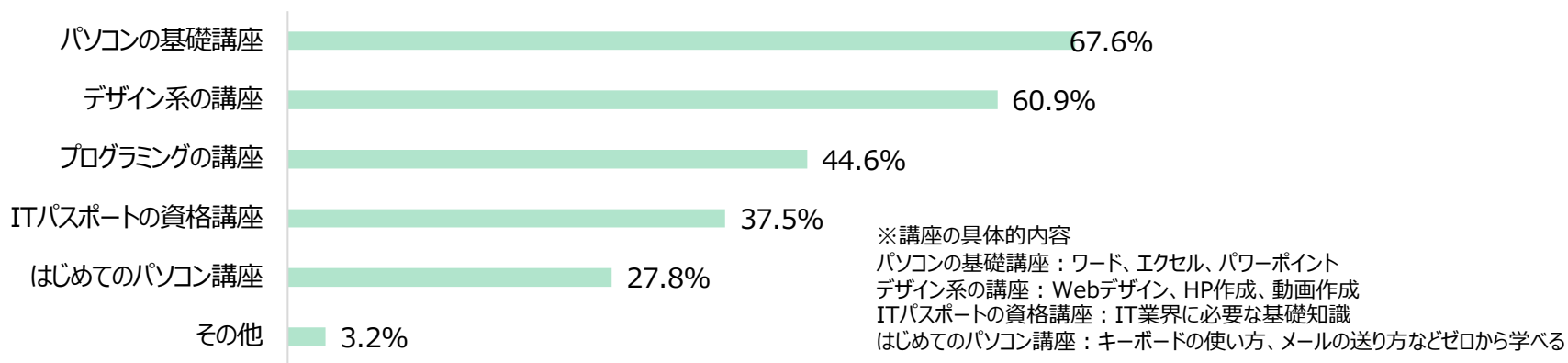


※「パソコンを使ったことはない」を除く

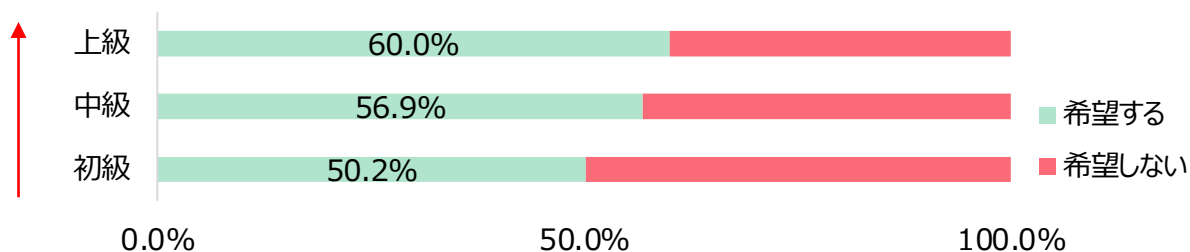
# 学びに向けて①：あったら良いと思う講座

気仙沼市であったら良いと思う講座については、「パソコンの基礎講座」が67.6%と最も多く、「デザイン系の講座」も60.9%と6割を超えていたが、IT分野に必要な基礎知識を身につけたいという人も37.5%と一定数いた。また、「プログラミングの講座」を希望する人について、エクセルのスキル別にみると、スキルが高い人ほど「プログラミングの講座」を希望していることがわかった。

気仙沼市であったら良いと思う講座  
(n=1079, 複数回答)



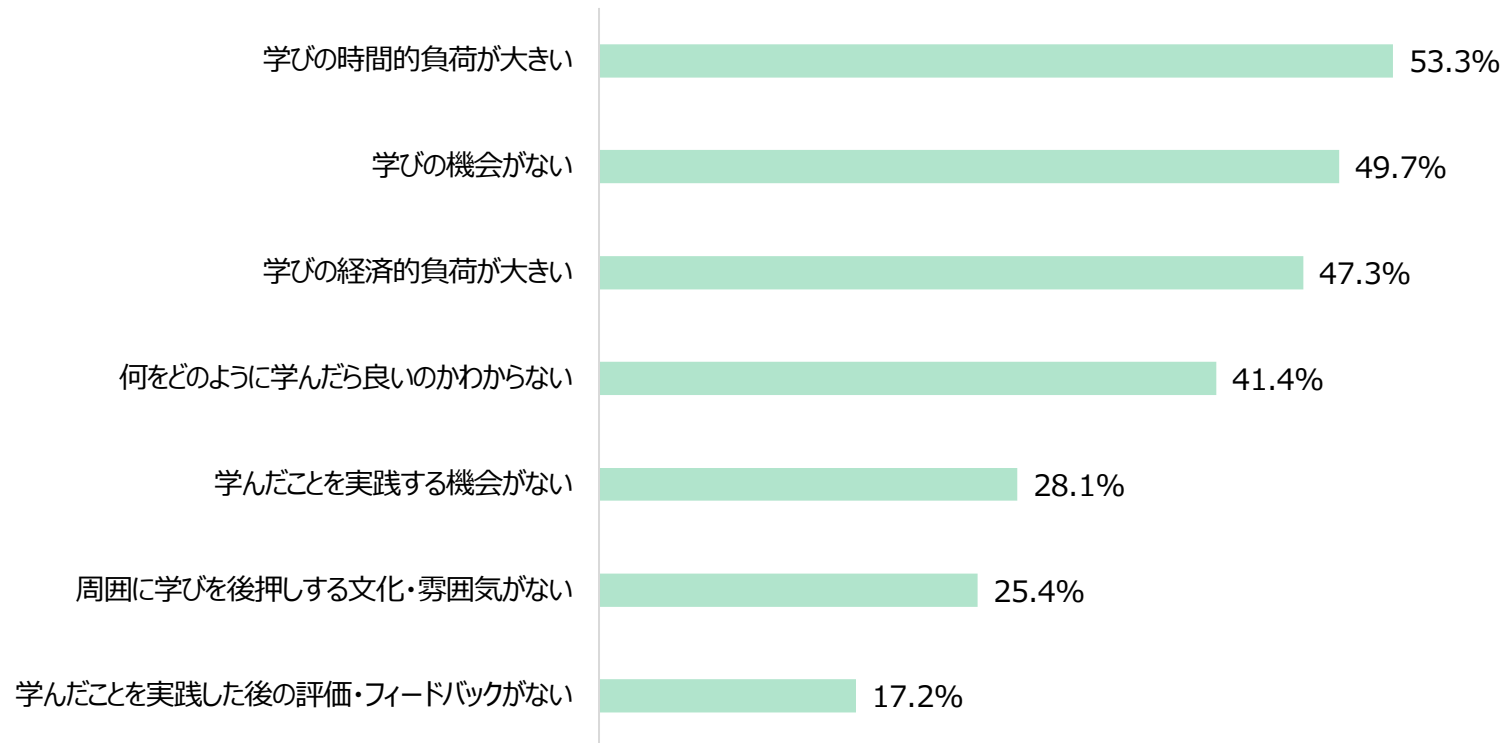
プログラミング講座を希望する人：エクセルのスキル別  
(n=957, 複数回答)



## 学びに向けて②：障壁

学ぼうえでのハードルについては、「学びの時間的負荷が大きい」が53.3%と最も多く、次いで「学びの機会がない」が49.7%、「学びの経済的負荷が大きい」が47.3%であった。

学ぼうえでのハードル (n=1079, 複数回答)

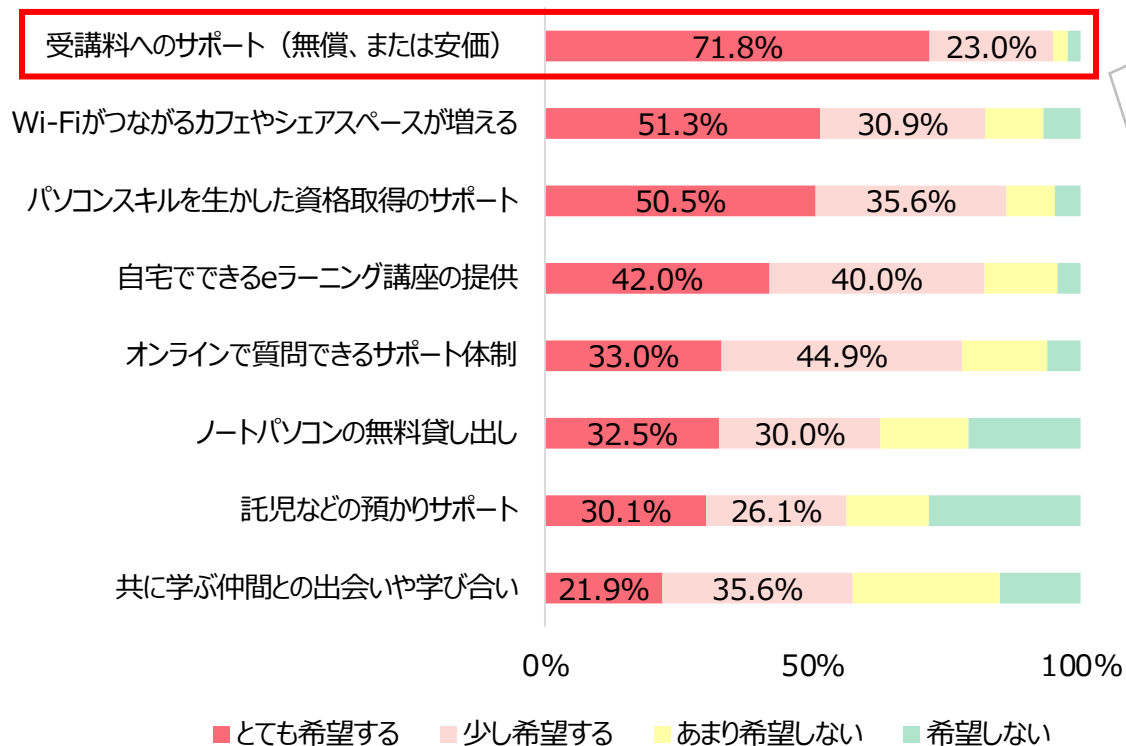


# 学びに向けて③：希望する環境やサポート

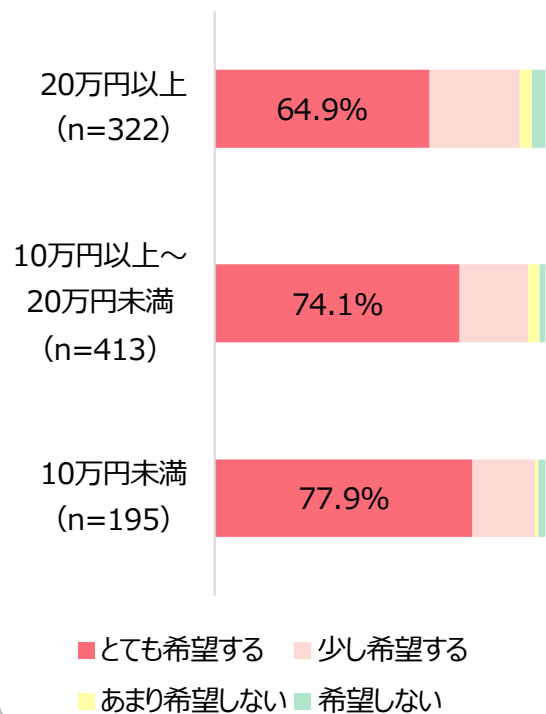
希望する環境やサポートについては、「とても希望する」に限ってみてみると、「受講料へのサポート」が71.8%と最も多く、次いで「Wi-Fiにつながるカフェやシェアスペースが増える」が51.3%、「パソコンスキルを生かした資格取得」が50.5%であった。

受講料へのサポートについて、月収別にみると、月収が低い人ほど「とても希望する」割合が多かった。

希望する環境や求めるサポート (n=1079, 複数回答)



月収別 (n=930)

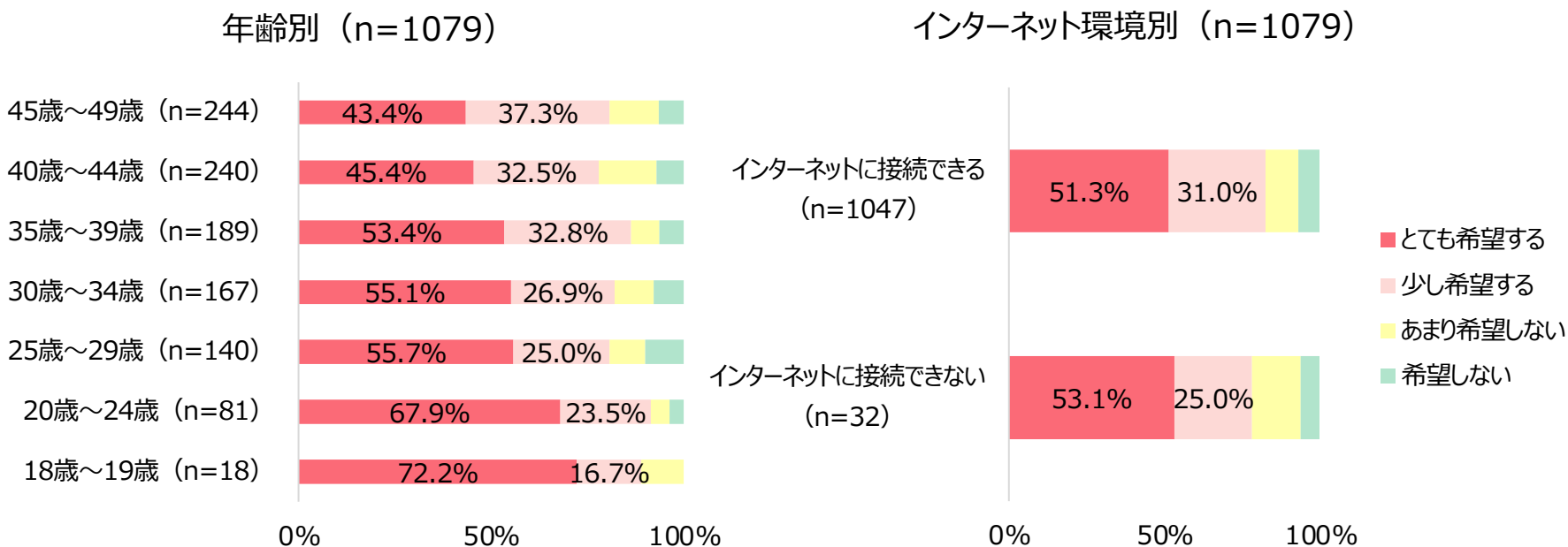


# 学びに向けて④：希望する環境やサポート

「Wi-Fiがつながるカフェやシェアスペースが増える」ことを希望していると回答した人について、年齢別にみると、年齢を問わず全体の約8割の人が「希望する」と回答しており、さらに年齢が若い人ほど「とても希望する」と回答した人の割合が高かった。

また、自宅のインターネット環境の有無に関わらず、約8割の人が「Wi-Fiがつながるカフェやシェアスペースが増える」ことを希望することがわかった。

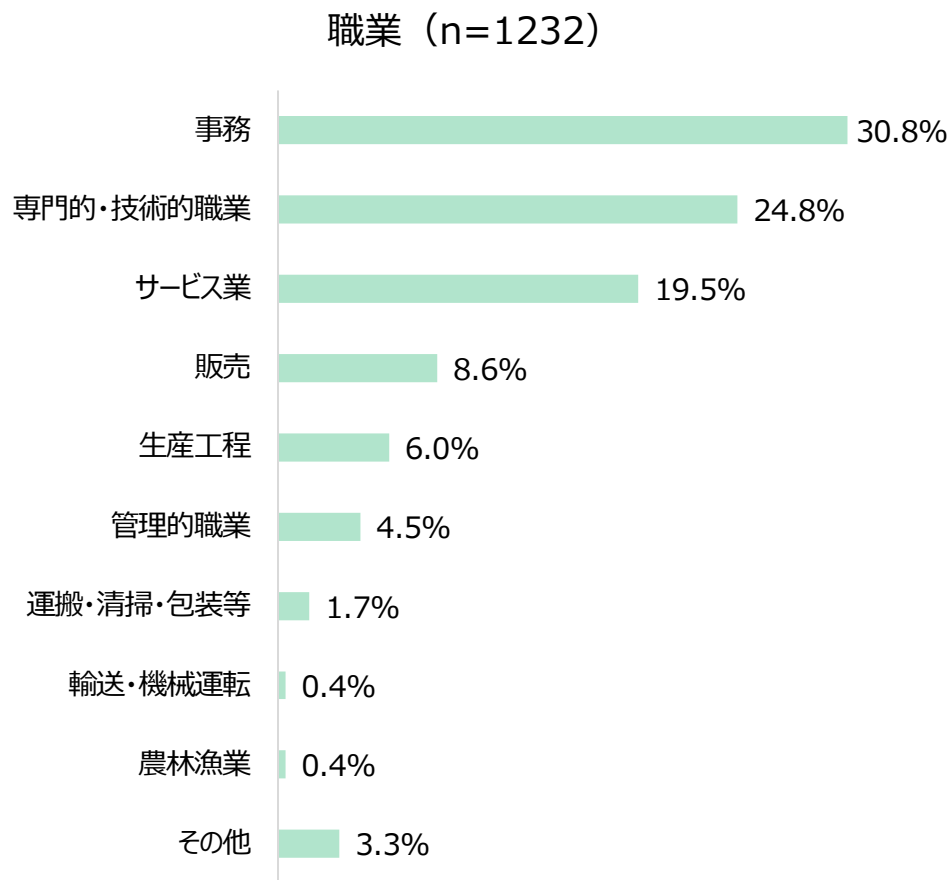
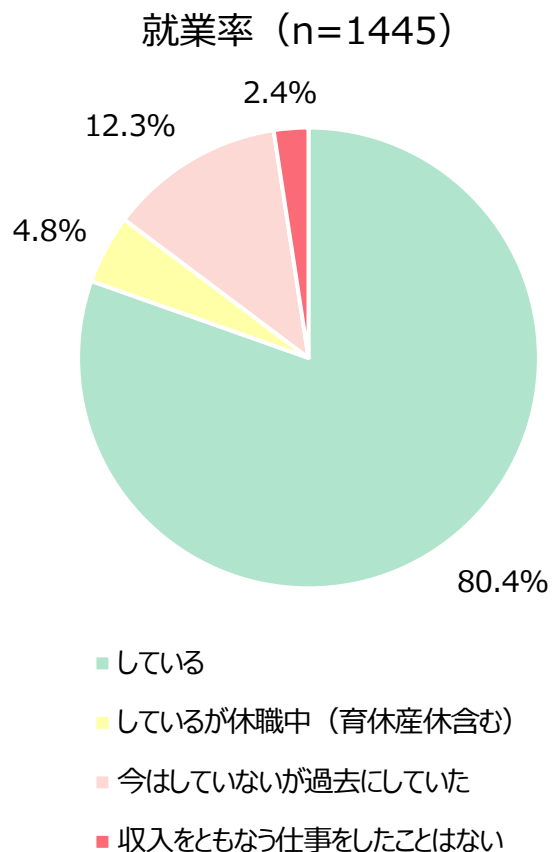
希望する環境や求めるサポート：「Wi-Fiがつながるカフェやシェアスペースが増える」



# 現在の仕事①：就業率、職業

就業率は、全体の85.2%であった。

職業は、「事務」が30.8%、「専門的・技術的職業」が24.8%、「サービス業」が19.5%、「販売」8.6%と多様であるが、「事務」と「専門的・技術的職業」が過半数を占めていた。



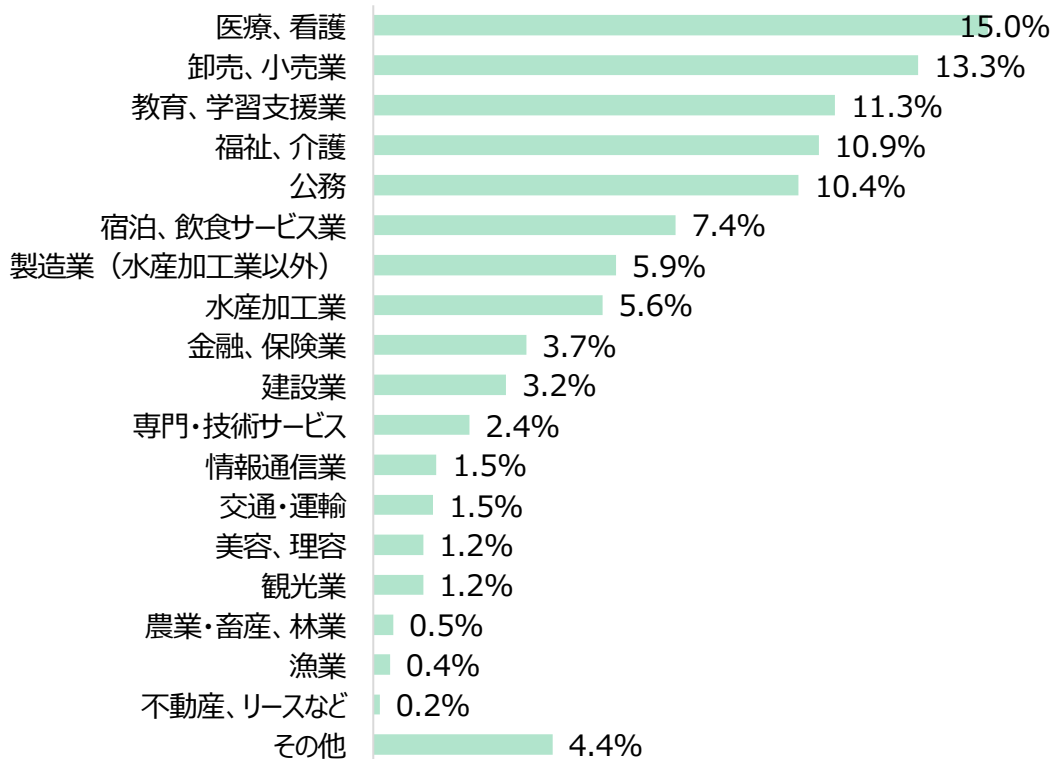


# 現在の仕事②：産業、企業規模

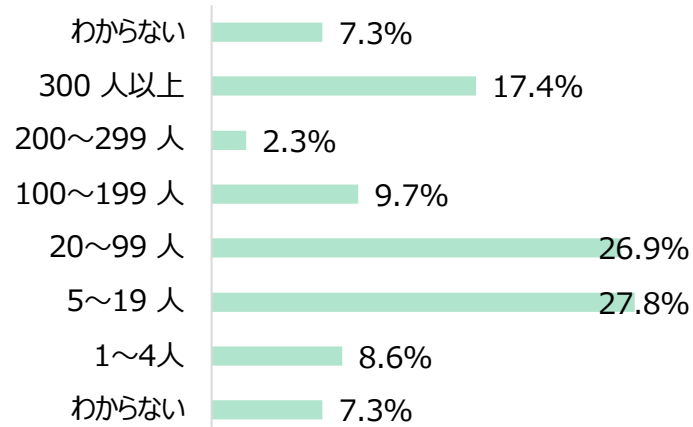
産業は、「医療、看護」が15%、「卸売、小売業」が13.3%、「教育、学習支援業」が11.3%、「福祉、介護」が10.9%、「公務」が10.4%と多様であった。

企業規模は「5~19人」が27.8%、「20~99人」が26.9%と多かったが、「300人以上」も17.4%であった。

産業 (n=1232)



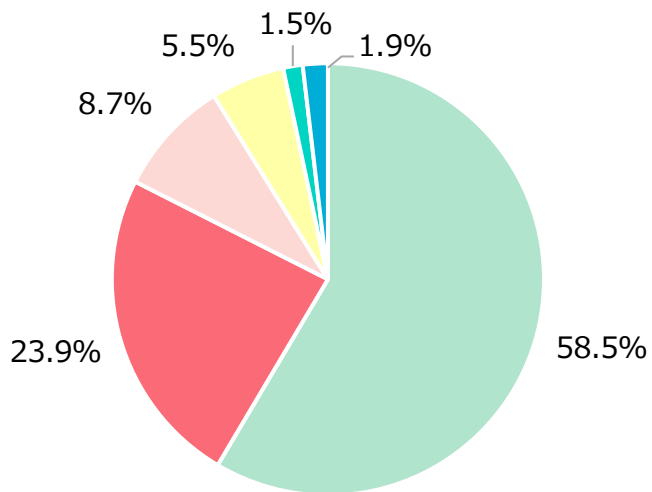
職場の企業規模 (n=1232)



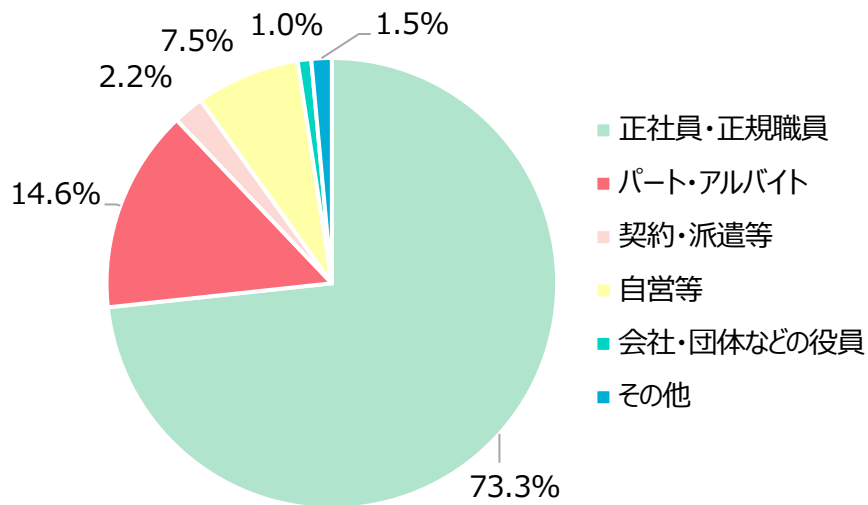
# 現在の仕事③：雇用形態（現状と希望）

雇用形態について、現状と希望を比較してみると、「正社員・正規職員」は58.5%から73.3%へ、「パート・アルバイト」は23.9%から14.6%へと変化しており、非正規雇用よりも正規雇用を希望している女性が多いことがわかった。

現在の雇用形態（n=1232）



希望する雇用形態（n=1232）



パート・アルバイト：パート、アルバイト  
契約・派遣等：契約社員・嘱託、臨時職員、派遣社員  
自営等：自営業、家族従事者、内職、自由業/フリーランス

# 現在の仕事④：収入

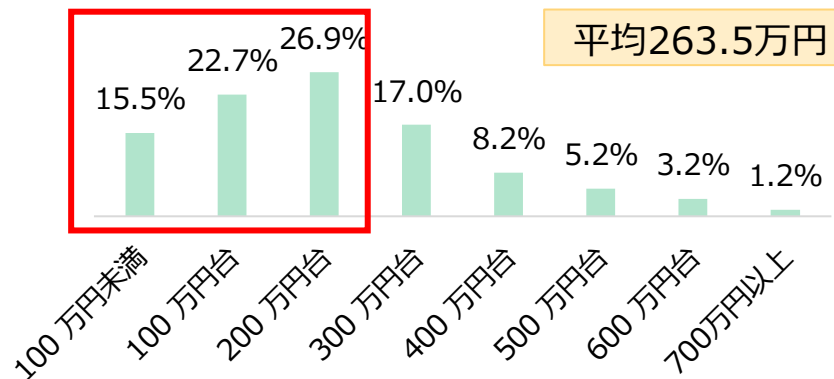
2022年の年収は、300万円未満が65.1%を占め、平均年収は263.5万円であった。

平均年収を雇用形態別にをみると、「正社員・正規職員」が335.4万円、「パート・アルバイト」が125.8万円、「契約・派遣等」が214.1万円であった。

また、2023年7月の平均月収は16.8万円であったが、雇用形態別にみると、「正社員・正規職員」が20.4万円、「パート・アルバイト」が9.5万円、「契約・派遣等」が16万円と、パート・アルバイトが最も低かった。

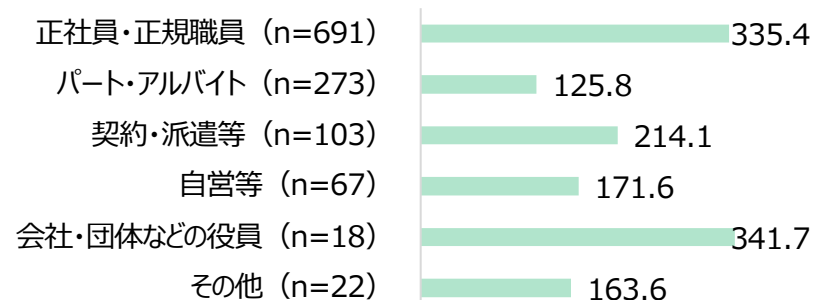
### 年収分布（2022年）

(n=1174)



### 平均年収（2022年, 雇用形態別）

(n=1174)



### 平均月収（2023年7月, 雇用形態別）

(n=1232)

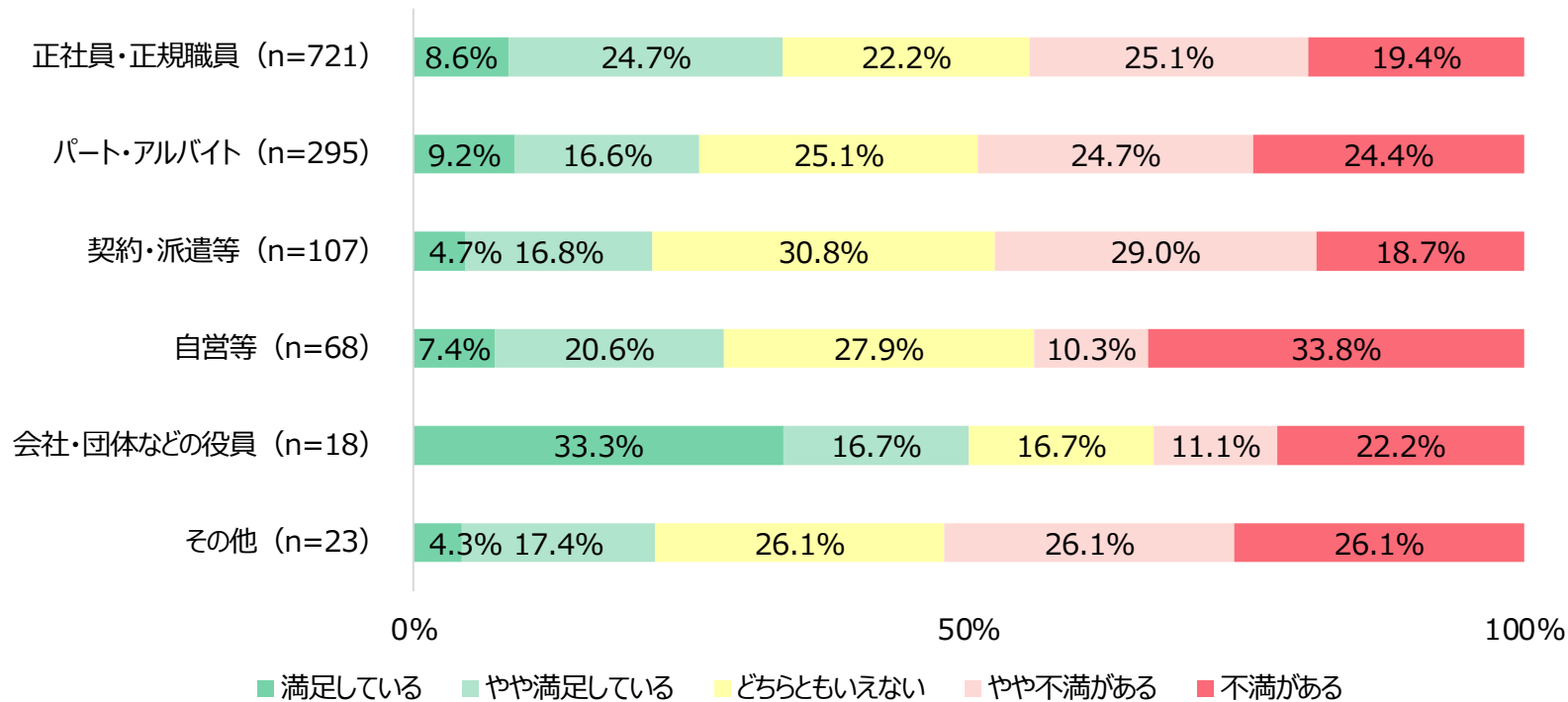


平均16.8万円

# 現在の仕事⑤：収入満足度

収入に満足している人（「満足」、「やや満足」）を雇用形態別にみると、「会社・団体など役員」が5割を占めた  
が、それ以外の雇用形態では、収入に不満（「不満」、「やや不満」）と回答した人の割合が4割～5割であった。

収入満足度（雇用形態別）  
(n=1232)

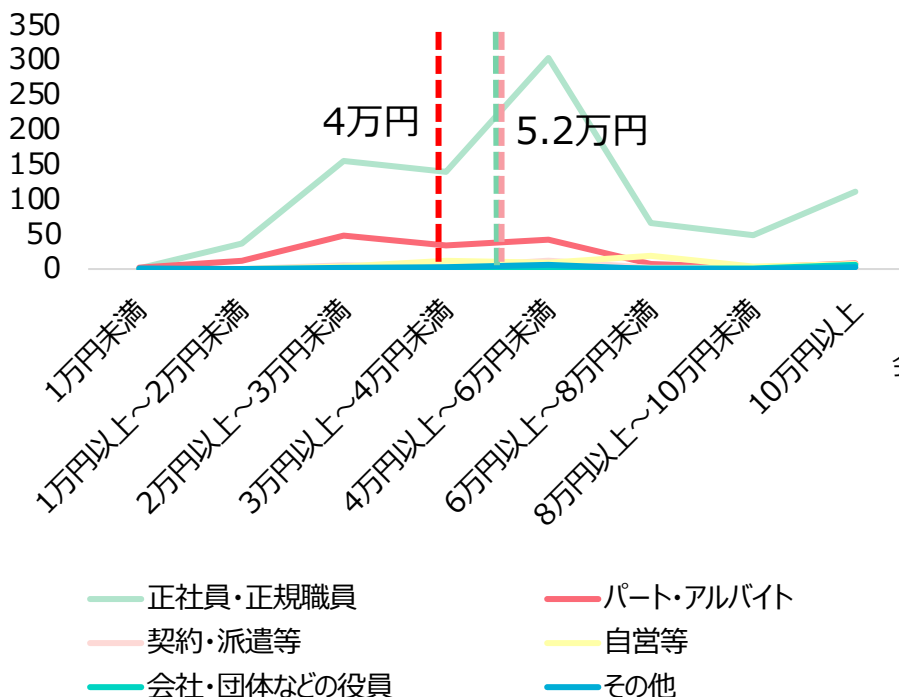


# 現在の仕事⑥：希望する収入

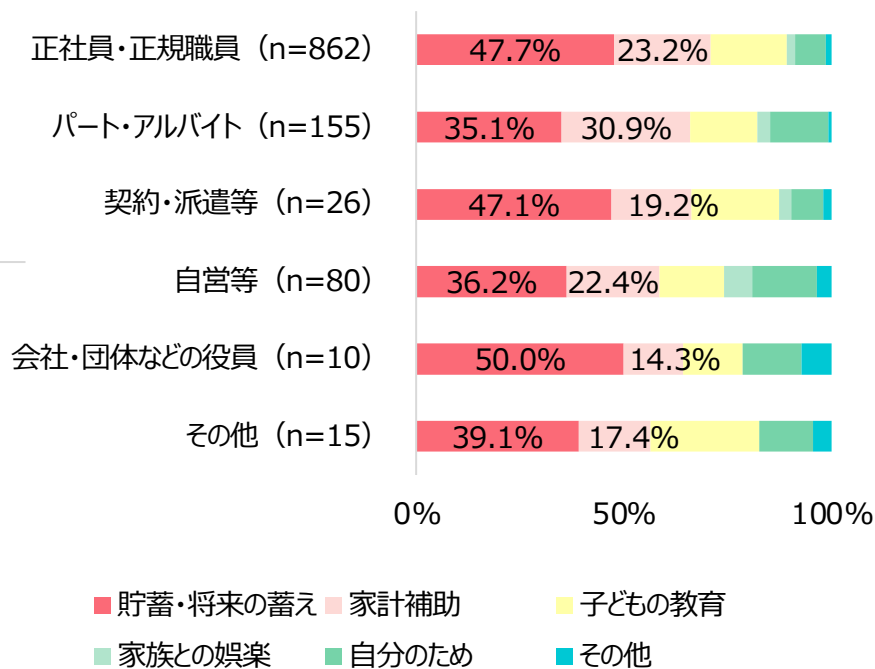
1ヶ月あたりの増やしたい金額の平均は、「正社員・正規職員」と「契約・派遣等」が5.2万円、「パート・アルバイト」が4万円であった。

収入を増やしたい理由としては、「貯蓄・将来への備え」と回答した人の割合が、「正社員・正規職員」と「契約・派遣等」が47～50%と高く、「家計補助」と回答した割合が高かったのは「パート・アルバイト」の30.9%であった。

1ヶ月あたりの増やしたい金額  
(雇用形態別, n=1148)



収入を増やしたい理由  
(雇用形態別, n=1148)



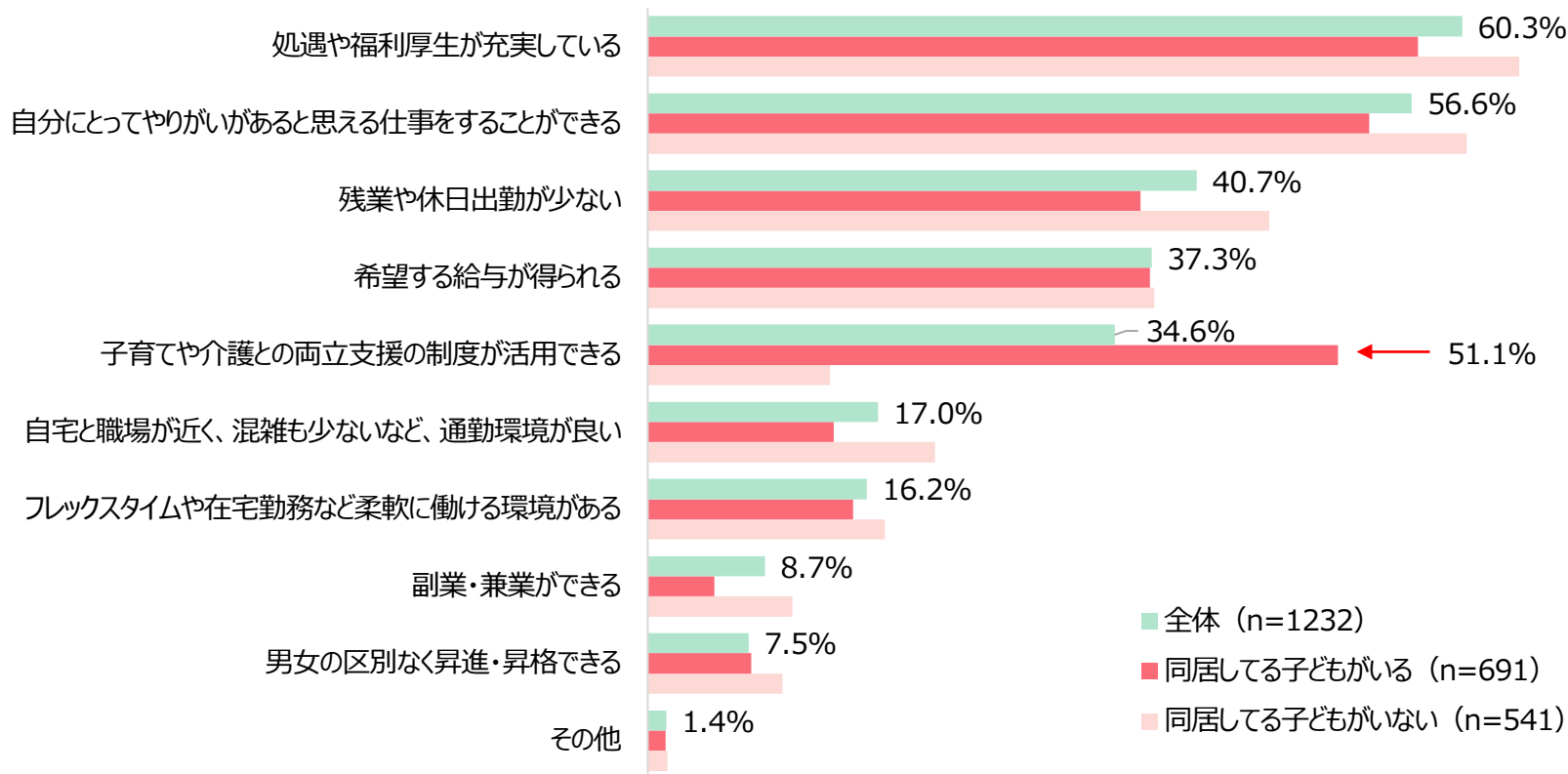
# 現在の仕事⑦：希望する職場環境

希望する働き方ができる環境については、「処遇や福利厚生が充実している」が60.3%、「自分にとってやりがいがあると思える仕事をする事ができる」が56.6%であった。

同居している子どもがいる人は、上記に加えて「子育てや介護との両立支援の制度が活用できる」を51.1%の人が希望していた。

## 希望する働き方ができる環境

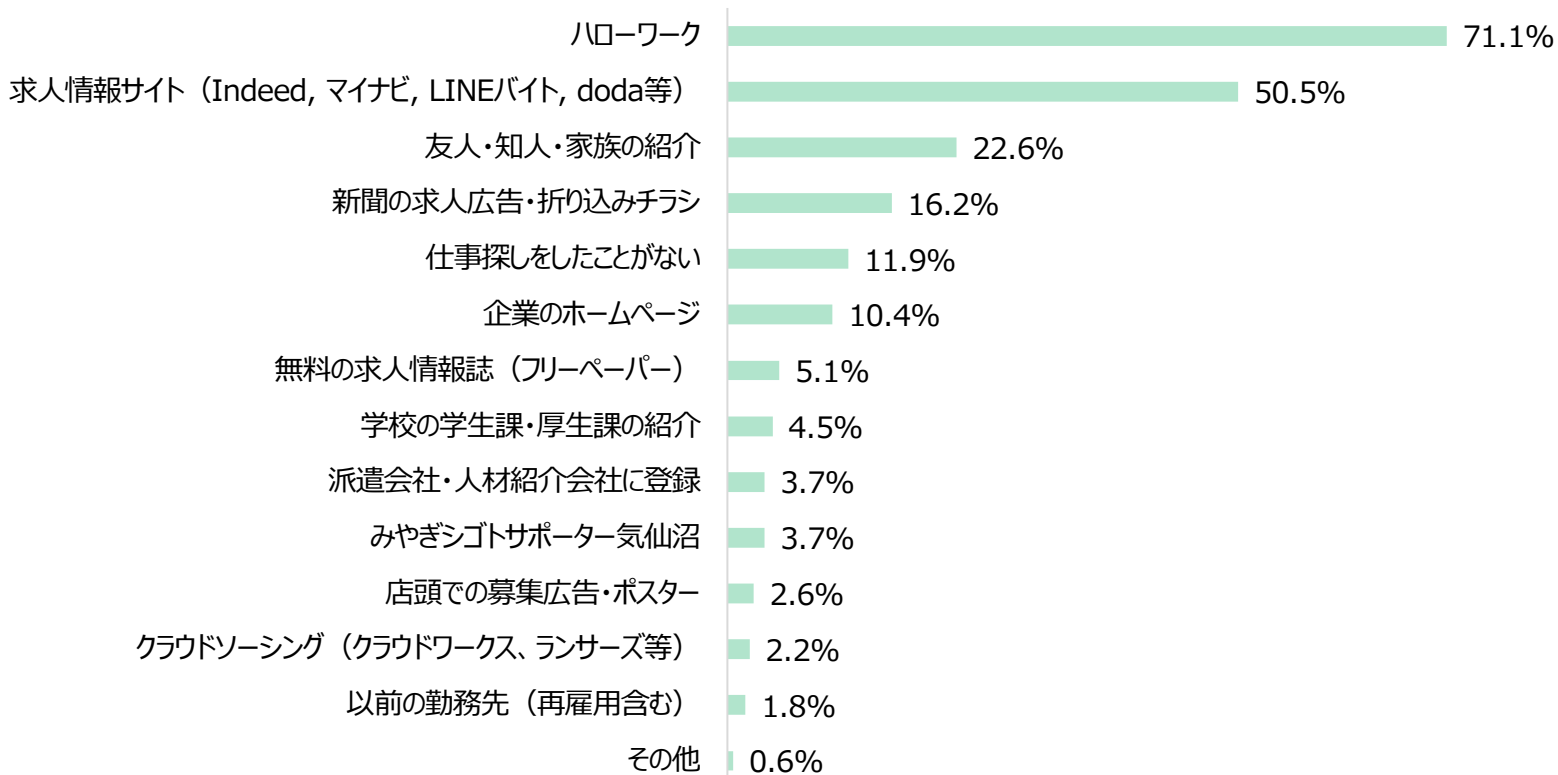
(n=1232, 複数回答)



# 仕事探し①：情報源

仕事を探す際の主な情報源は、「ハローワーク」が71.1%と最も多く、次いで「求人情報サイト」が50.5%、「友人・知人・家族の紹介」が22.6%であった。

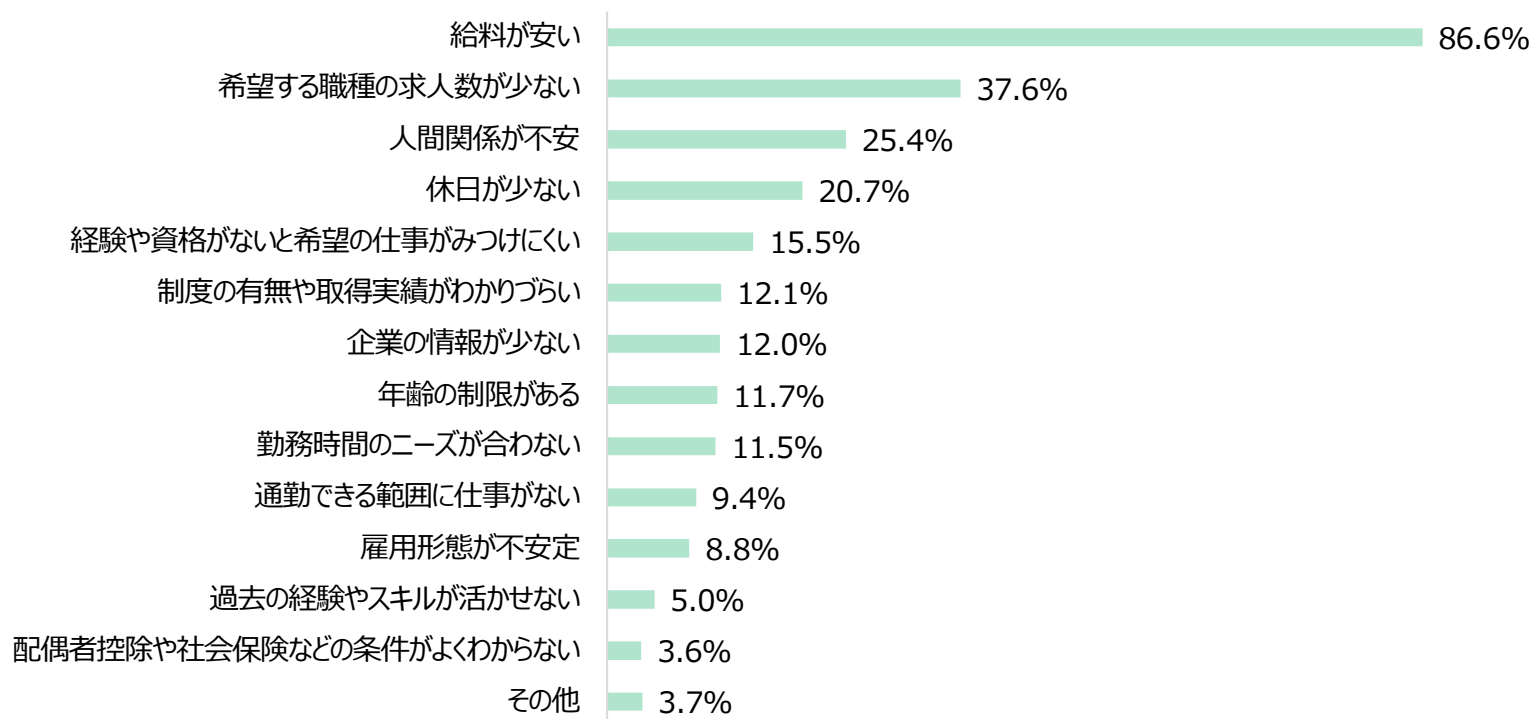
仕事を探す際の主な情報源（n=1232）



## 仕事探し②：課題

気仙沼で仕事探しする中で感じた課題は、「給料が安い」が86.6%と最も多く、「希望する職種の求人数が少ない」が37.6%、「人間関係が不安」が25.4%であった。

仕事探しする中で感じた課題（n=1017, 複数回答）



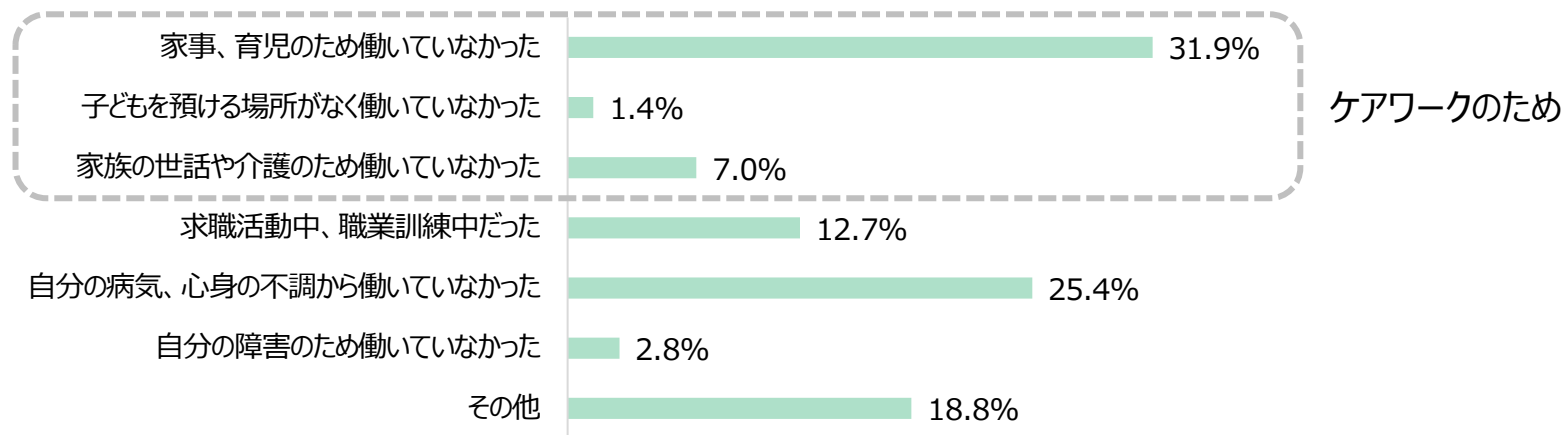
※「特になし（気仙沼で就職活動をしたことがない方も含む）」を除く



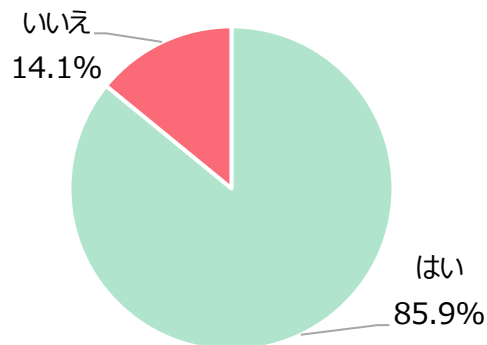
# 現在仕事をしていない人①：働いていない理由

仕事をしていない人について、働いていなかった主な理由は、子育てなどのケアワークのためが40.3%であった。また、数年以内に働きたいと回答した人は85.9%と多かった。

働いていなかった主な理由 (n=213)



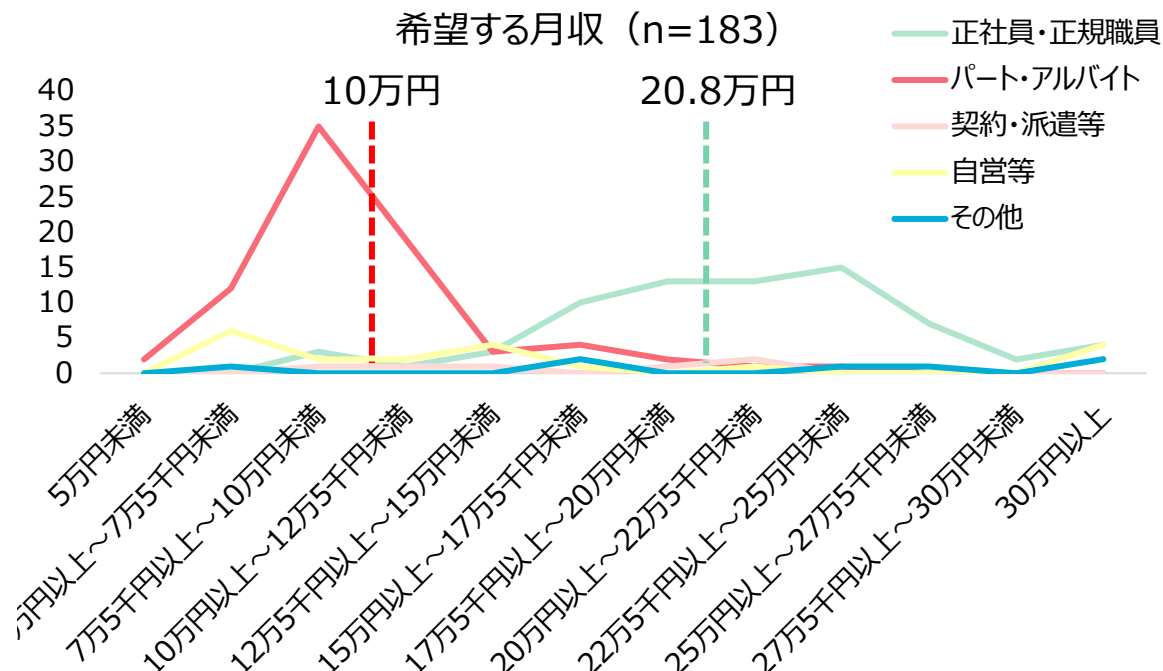
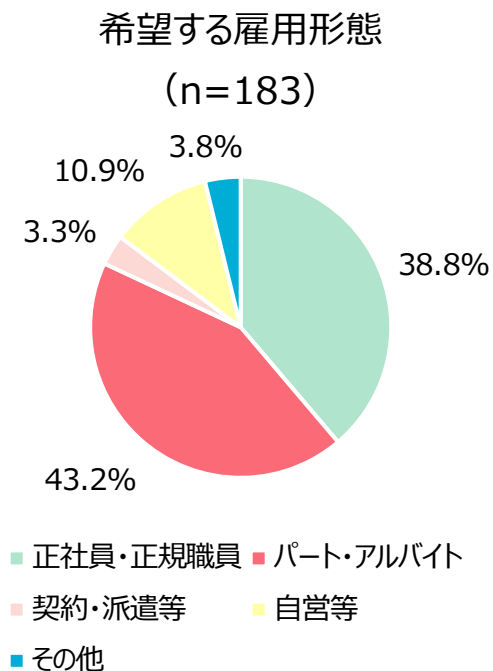
数年以内に働きたい (n=213)



# 現在仕事をしていない人②：希望する雇用形態と収入

数年以内に働きたいと回答した人が希望する雇用形態は、「パート・アルバイト」が43.2%と、「正社員・正規職員」の38.8%を上回った。

希望する月収の平均金額について、希望の雇用形態別にみると、「正社員・正規職員」が20.8万円、「パート・アルバイト」が10万円であった。

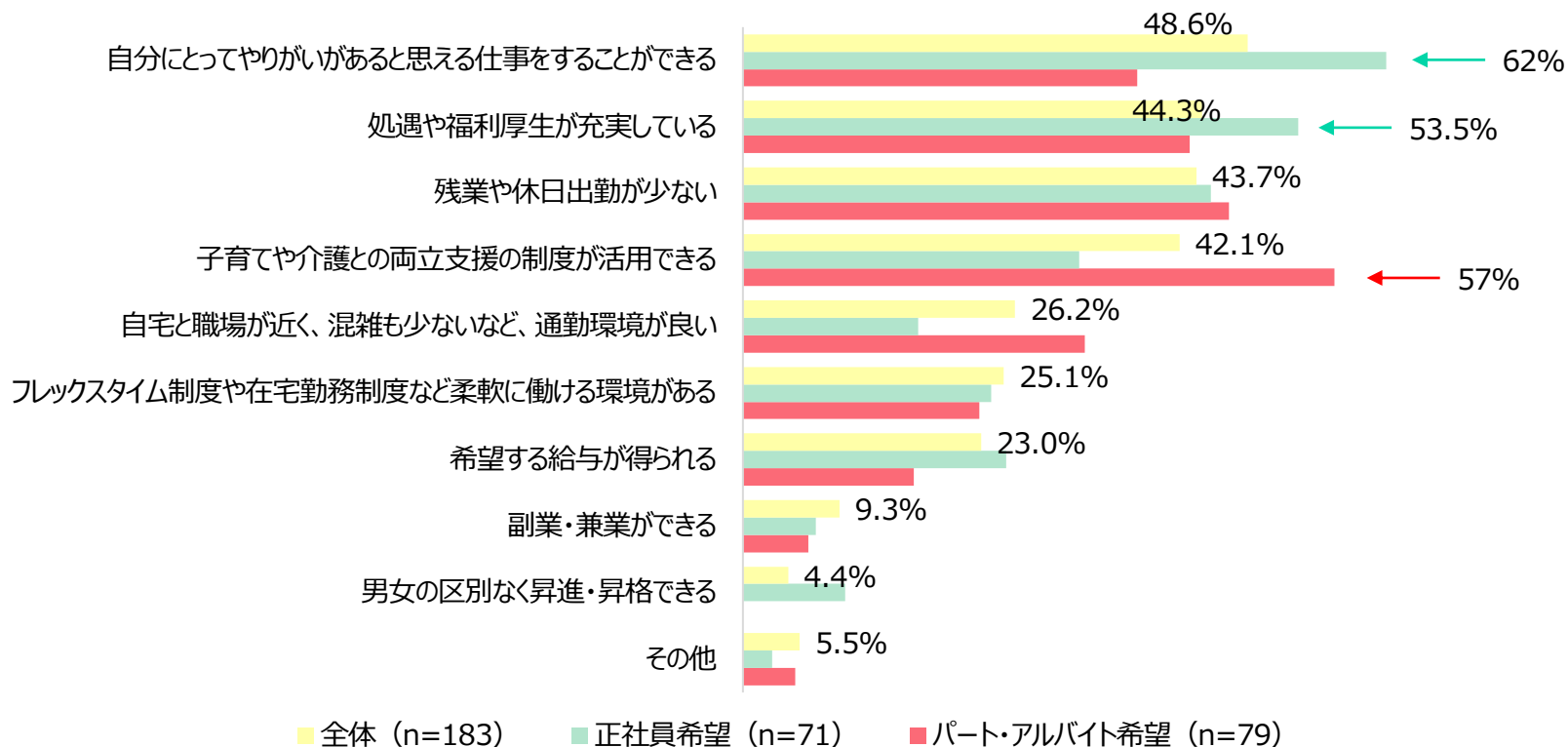


# 現在仕事をしていない人③：希望する職場環境

希望する働き方ができる環境は、全体の中では「自分にとってやりがいがあると思える仕事をする事ができる」が48.6%、「処遇や福利厚生が充実している」が44.3%、「残業や休日出勤が少ない」が43.7%、「子育てや介護との両立支援の制度が活用できる」が42.1%と多かった。

希望する雇用形態別にみると、パート・アルバイト希望の人は、「子育てや介護との両立支援の制度が活用できる」が57%と最も多く、正社員希望の人は、「自分にとってやりがいがあると思える仕事をする事ができる」と「処遇や福利厚生が充実している」が多かった。

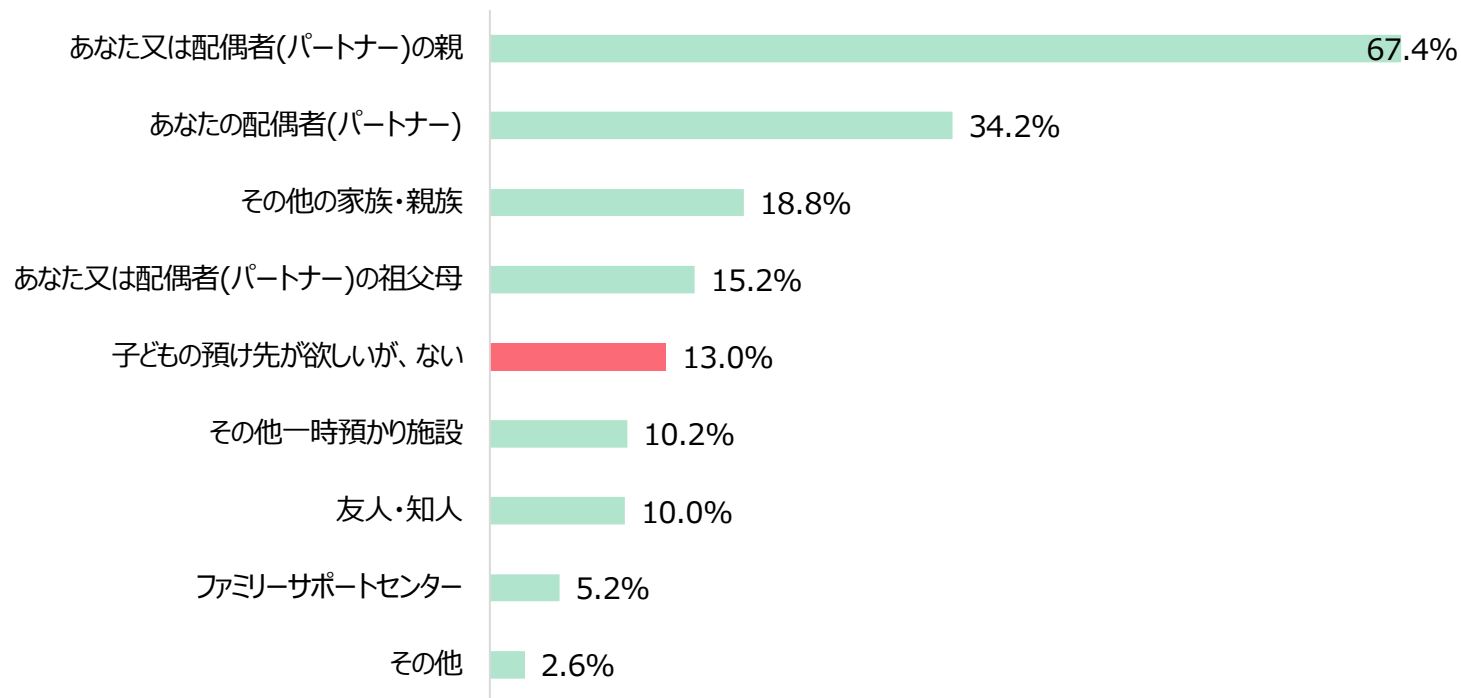
希望する働き方ができる環境（n=183, 複数回答）



# 子どもの急な預け先

子どもの急な預け先については、家族を頼る人が多い一方で、「子どもの預け先が欲しいが、ない」人が13%いた。また、「その他一時預かり施設」が10.2%、「ファミリーサポートセンター」が5.2%と、家族以外の預け先を利用している人は少なかった。

子どもの急な預け先  
(n=660, 複数回答)



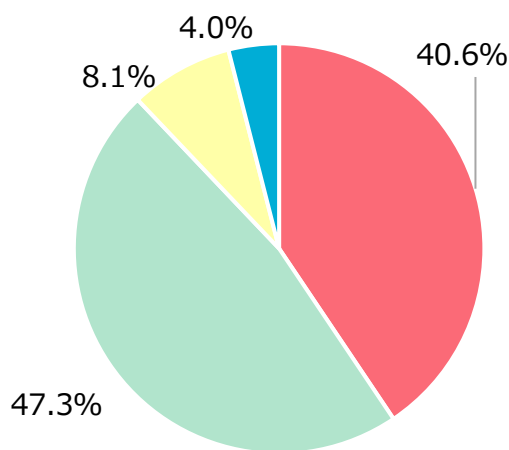
※「子どもの預かりは必要ない」を除く

# 職場の男女の地位①：年齢による差

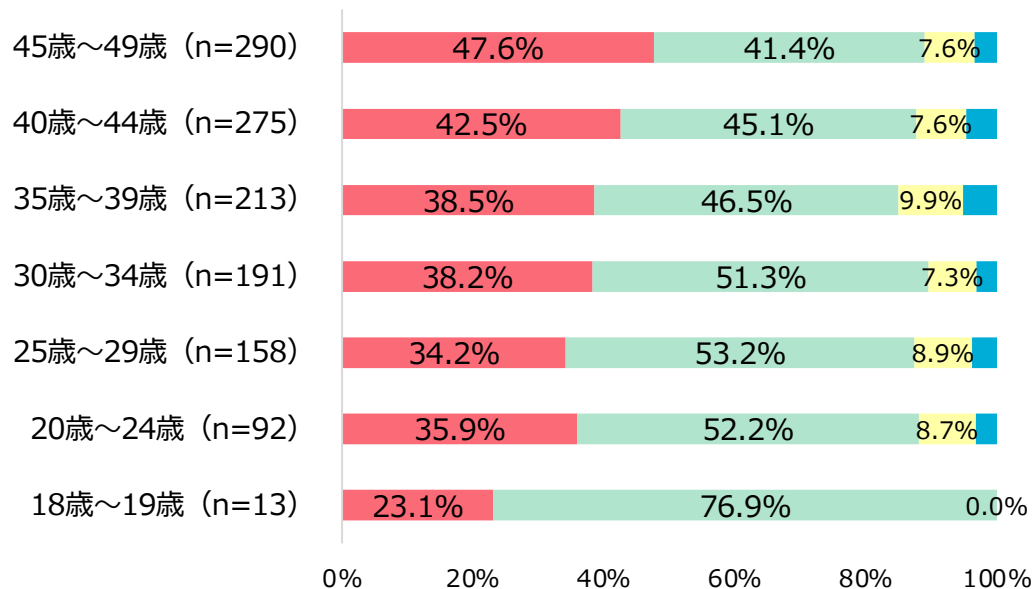
職場の男女の地位については、年齢が若い人ほど、「男女の地位は平等である」と考える人が多く、年齢が高い人ほど、「男性の方が優遇されている」と考える人が多かった。

どの年齢層をみても、「女性の方が優遇されている」という回答は少なかった。

職場の男女の地位について  
(n=1232)



年齢別 (n=1232)



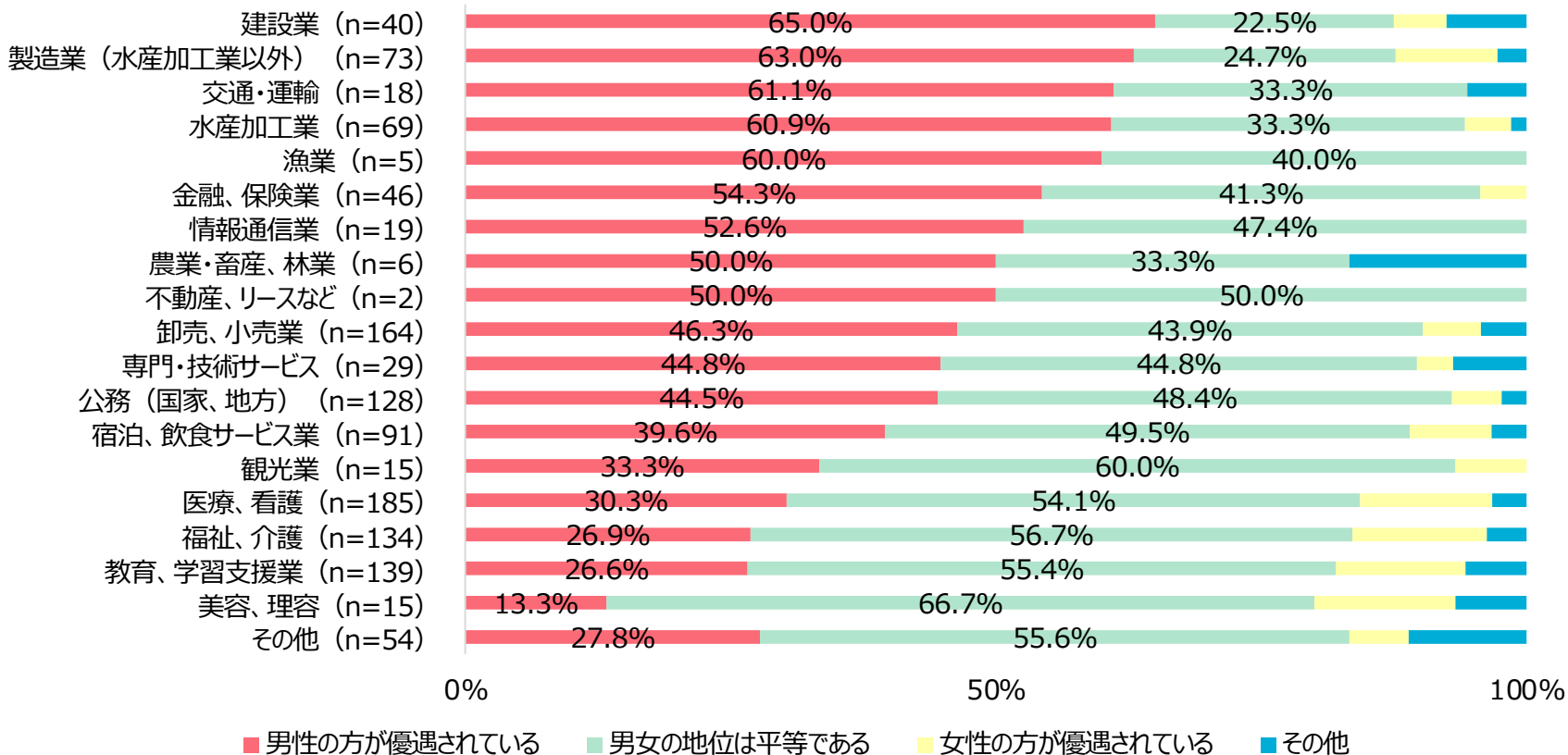
■ 男性の方が優遇されている ■ 男女の地位は平等である ■ 女性の方が優遇されている ■ その他

## 職場の男女の地位②：産業による差

職場の男女の地位について産業別にみると、「男女の地位は平等である」と感じている人は「理容、美容」、「観光業」、「福祉、介護」で多かった。

一方、「男性の方が優遇されている」と回答している人は、「建設業」、「製造業（水産加工業以外）」、「交通・運輸」、「水産加工業」の順で多かった。

産業別（n=1232）



※ 産業によっては、一部構成比の分母となるサンプル数が少ないものが含まれるため、結果の利用には注意を要する。

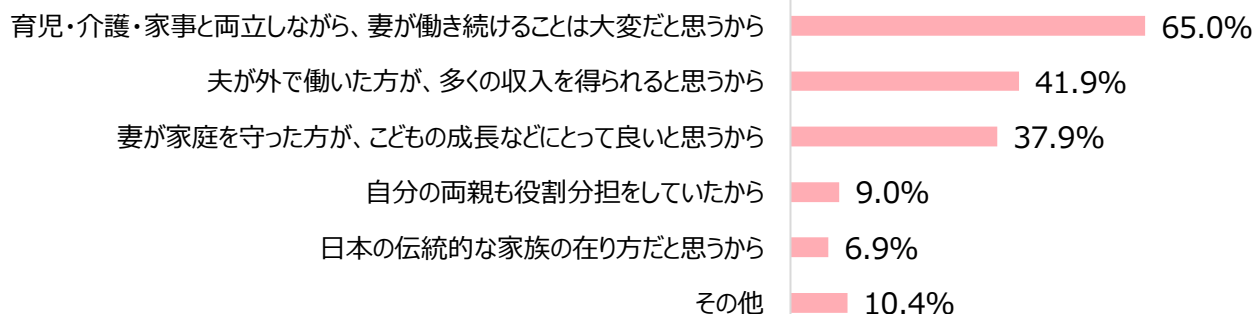
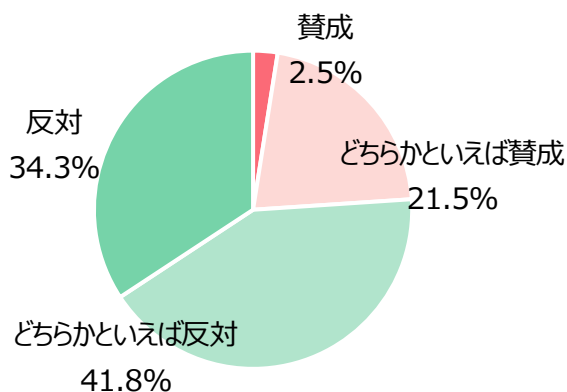
# 男女の性別役割分業に対する意識

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答した人は24%であった。

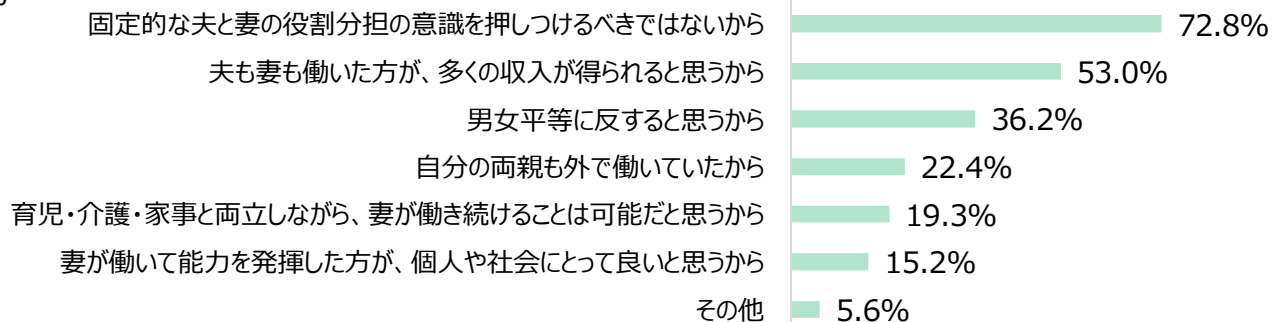
その理由としては、「育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」が65%、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が41.9%と多く、女性の育児・介護・家事の負担、男女の賃金格差など既存の課題が反映されていると思われる。

## 賛成の理由 (n=346, 複数回答)

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について  
(n=1445)



## 反対の理由 (n=1099, 複数回答)



# 自由記述①：就労に向けた研修、雇用支援

## ➤ 研修のサポート

- 気軽に参加できるような研修、雇用支援があればぜひ参加したいです。女性の収入が上がり環境が変わっていけば少子化対策にもつながり将来の気仙沼市も明るくなると思います。（30代、正社員）
- 興味があっても平日働いていると参加できないことが多いため、平日夜や土日に参加できるものが増えると良いと思う。（40代、パート）
- 子供がいると、なかなか希望の仕事ができません。正社員で働きたいが、育児家事仕事の両立はとても大変でまだできません。パソコン講座なども受講したいが、時間や子供の預け先などを考えると実行する勇気がありません。子育て中の人でも受講しやすい講座やセミナーがあれば行きやすいです。（30代、パート）

## ➤ 雇用支援

- （略）7月までは東京都内のフルリモート事務を行なっておりましたが、現職との収入差は2倍程度あります。収入をいただけるだけありがたいことではありますが、可能ならリモートの案件や求人を求める方は多いかと思います。何かリモートワークに関するサポートや支援があればすごく嬉しいです！（20代、派遣社員）
- 興味のある仕事、職場を見学させていただき、実際にどんな環境、雰囲気の中で仕事をしているのかを見てから、職に付きたい（40代、パート）
- 資格取得～就職まで一貫した支援が必要だと思います。（40代、正社員）

## ➤ 職場の待遇

- 研修は素晴らしいと思うが、やはりもともと少ない給与で蓄えがない状態で転職となるとすぐ職をみつけないと生活に困る。ましてや家族がいたら養えない。支払いは待ってくれないので、物価も上がっていて支援金とかもしあってもやはり参加しづらい。スキルアップすれば収入アップに繋がるのはわかるが、その時間すら余裕がない人だっている。気仙沼全体で給与がすくなすぎる。もしくは差が激しすぎる。（30代、正社員）
- 女性の産休育休に対して否定的な考えの会社が多いと感じます。制度としてはとれても、とることに対しての罪悪感や、復帰後の対応などに不満を感じることがあります。もっと周困が子育てに対して理解し協力する体制がないと、子育てしながら働くことは負担が大きいです。（30代、正社員）
- 子供がいても働きやすく、休みが取りやすい職場がほしい。行事や体調不良、保育所がやっていない時に休みをとると上司から休むなど注意される。（20代、正社員）



## 自由記述②：就労に向けた研修、雇用支援

### ➤ 求人に関する困りごと

- 40歳を過ぎて今の仕事に体力の限界を感じてきているが、今さらデスクワークなどの仕事はスキルもなく、年齢制限があって就職できない。今からの年齢で再就職は雇用形態があわず給料が安い。それでは今からもっとお金がかかる子育てができない。不安である。(40代、正社員)
- 気仙沼では希望の職が無く、仕方なく現在は一関で働いています。仕事を探しても水産関係ばかりで、障害者求人も食品製造ぐらいしかありません。私はITパスポートの資格もあり、Officeの基本ソフト他Illustrator等デザインの専門ソフト等のスキルも持ち合わせていますが、気仙沼では全く活かす機会が無く、残念に思っています。(30代、アルバイト)
- 気仙沼では働ける職種が少なく、若者が気仙沼に戻ってこれず、気仙沼から若者が消えてしまうので困っています。さらに公務員なども若者の採用枠を増やしてほしいです。私の周りにも採用枠がないため戻りたくても戻れない若者がたくさんいます。(20代、アルバイト)

### ➤ 就労のサポート

- 子育てをしながら自分らしい仕事をするサポート体制が整うとよいかと思います。(40代、正社員)
- 託児できるところや病児保育できるところを増やしてほしい。(30代、パート)
- 子供が小さいと保育所の空きがなく、働きたくても働けない。託児所などある会社が増えて欲しい。(30代、現在仕事をしていない)

### ➤ デジタル以外の研修

- 就職等に有利な資格を最短で取れるや在宅ワークのやり方等を教えて欲しいです。(30代、現在仕事をしていない)
- 私は今年、介護の仕事に転職しました。しかし、気仙沼で資格取得できる研修がなく、色々探してみても、仙台方面や一関まで通わないといけないような研修しかありません。子育てと仕事の両立をしながら、介護の資格を取るならば気仙沼市内で初任者研修を受けたいです。高齢者が増える一方で、取っ払って意味のある資格だと思しますので、年に数回でも初任者研修を受けられる場を作っただけならありがたいです。(30代、パート)
- 働く上でスキルアップができる研修などがあれば受けたいと思う(40代、正社員)

# 自由記述③：就労に向けた研修、雇用支援

## ➤ 情報の発信

- 複数箇所にポスターなりネット広告なりあってもいいのかなと思う。就労支援、研修などがあることさえ知らないで...調べてもあまり出てこなかったため、前職と同じ業種へ、就職しましたが、キャリアアップなどもできたらよかったのにとちょっと後悔しております。(30代、パート)
- 働いている人が、転職やスキルアップに有利になる研修などがあれば情報をもっと発信してほしい。情報源が少ないと感じる。(40代、正社員)
- 東京に居た時に、気仙沼への転職を考えていましたが、本当に仕事の情報がなくとても困りました。結局、ほぼ情報がないまま帰ってきました。(気仙沼に帰ってきてからハローワークに通いました。) また、気仙沼の家賃は驚くほど高いです。気仙沼での給与を考えると、「誰に貸そうと思っての料金設定なの?」と正直腹が立つほどです。私と同じように、上記のような経験をした結果、「気仙沼に帰る」という選択を諦めてしまう人も居るのでは?とっております。(30代、正社員)

## ➤ 職場での働き方

- 在宅ワークを支援する会社があって、その会社を通して業務を受ける形で在宅の仕事を受けられるとか、在宅ワークを始めるときの相談に乗ってもらえるとか、主婦が在宅ワークを始めのを手助けをする人がいれば、女性の社会進出にも世帯の収入アップにも繋がると思う。在宅ワークに興味はあっても、一人でスタートできる人は少ないと思うので、在宅ワークができる支援をしてほしい。(30代、正社員)
- 子育てや介護をしながら正社員で働く事は可能であるが、シフト制の職場では困難であり、フルタイムで働けるが勤務時間の制約があると、契約職員への雇用変更を余儀なくされる。柔軟な働き方ができるようにするべきであると思う。(30代、正社員)
- 子どもがいる人の短時間勤務などが充実してくれると助かる。行事に対応など。そういう会社が増えてくれるといいが気仙沼では現実なかなか厳しい。研修で学んだとしても活かせる場所が少ない。(40代、現在仕事をしていない)

## 自由記述④：就労に向けた研修、雇用支援

### ➤ デジタル関連の研修

- 男女関係なく受講できるPCスキルアップに関する講座や就労支援を希望します。（20代、契約社員・嘱託）
- エクセルやワード、パワーポイントなど仕事に活かせるツールの活用について中級～上級の講座があると良いです。なかなか社内では気軽に聞ける人が少ないので。（30代、正社員）
- 最近の求人では、事務職は年齢制限があり40歳を過ぎての求職活動がとってもしんどいです。特に資格も持っていない、パソコンスキルもない...となると本当に難しいです。スキルアップの研修会などあれば、是非参加したいです。（40代、臨時職員）

### ➤ その他

- 給与が低いのに家賃が高いせいで地元の人には実家があるから気軽にUターンして就職できるが、そうではない人や、結婚して世帯を新しく持つ人には生活しづらい街。なのでそういった人達を採用する際に手当てや支援制度があれば良いのではないかと。（30代、正社員）
- 女性は超初級しか学べないパソコン系や、事務系の研修などが多いのですが、それが望む形での就職につながるかといえば厳しいと思う。就職できても他に比べて低賃金だったり、そもそもそんな求人が少ない。20代以下の若い方と、30代以降の子育て世代ではまた違うとは思いますが、もっと実用的、即戦力になるような研修や支援ができればいいな。と思います。（30代、正社員）
- 気仙沼は昔ながらの考えで家庭は女性が守って当然だと考える方が多いように感じます。女性が社会で活躍する為には家族、特に夫の理解がないと出来ないと考えます。女性ばかりに研修や支援をするのではなく、男性の理解を深める機会があれば嬉しいです。（40代、会社・団体などの役員）

# 自由記述⑤：気仙沼市の良いところ/好きなところ

## ➤ 自然/景観

- 海が綺麗。自然を身近に感じながら生活出来る。(40代、正社員)
- 自然が豊かで景観が美しいところが好きです。(30代、正社員)
- 綺麗な山と海。自然の中で遊ぶのは最高に楽しい。リフレッシュ出来る機会が増えた。(30代、現在仕事をしていない)

## ➤ 食べ物

- お魚が美味しい。(20代、正社員)
- 食材が豊富でおいしい。新鮮な海の幸が手に入れられる。日々の生活のなかで自然を感じられる。生活するのに必要なものはだいたいそろっている。(30代、正社員)
- 美味しくて新鮮な食材がたくさんあるところ(40代、契約社員・嘱託)

## ➤ 人

- 人が優しい人が多い(20代、アルバイト)
- 人に対してあたたかい、思いやりがある(40代、パート)
- 地域住民とのつながりがあること(20代、正社員)
- 友達や家族、親戚と助け合えるところ。(30代、会社・団体などの役員)

## ➤ 静か/穏やか

- のんびり暮らせるところ(40代、正社員)
- スロータウン(20代、臨時職員)
- 時間の流れがゆっくりしているところ(30代、現在仕事をしていない)
- のどか。比較的穏やか。住む環境としては良いと思う。市も子育て支援を頑張ってくれていると感じる。(40代、正社員)

# 自由記述⑥： 気仙沼市の良いところ/好きなところ

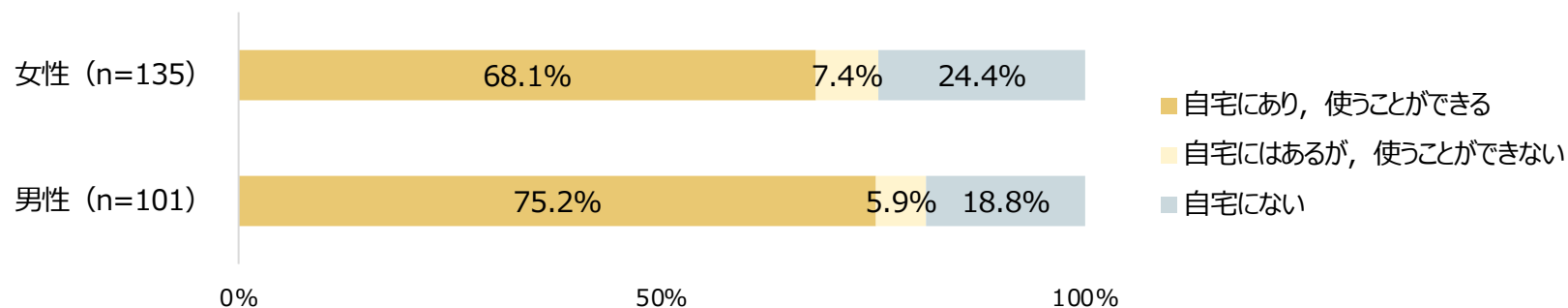
- 過ごしやすい/暮らしやすい
  - 治安が良い（20代、正社員）
  - 人が多すぎず住みやすいところ（20代、正社員）
  - 産まれた所、住み慣れたところだから住みやすい。新しいもの好き。（40代、パート）
- 子育て
  - 子育て支援が充実している（一時託児のおむすびさんやモリノネさん、児童館のイベントやわくわくけせんぬまなど母達の交流の場など）（20代、パート）
  - 小さな子どもがのびのびと育てる環境があるところ。（30代、正社員）
  - 地域で子育てしてくれている（30代、正社員）
  - 子育てしやすいまちにしようとがんばっている30～40代の人が沢山いて、ここ数年で子育て支援団体が一気に増えたこと。（30代、パート）
- 気候
  - 夏涼しく、冬暖かく、雪も少なく、湿度も低い、一年を通して過ごしやすい気候。景色が良い。（30代、正社員）
  - 暑すぎず寒すぎず、住みやすい気候が良いところ。 漁船を見ると日本の港や世界と繋がっていることを感じられ、好き。海が近く、すぐ釣りをしたり、泳げるところも好き。（40代、現在仕事をしていない）
  - よく晴れて空が綺麗。冬は寒さが厳しいが、雪は積りにくい。海沿い歩くととても気持ちが良い。（30代、自営業）
- その他
  - 程よく田舎で不便すぎない（20代、現在仕事をしていない）
  - 水産業が盛ん、ホヤぼーやが可愛い（30代、正社員）
  - 新しい施設が増えてきているところ。出かけてみようと思うし、休みの日など行動範囲が広がると、感じています。（30代、パート）

# 参考：地方創生に関するアンケート（一般用） 気仙沼市、令和5年8月

※本調査と同じ対象年齢（18～49歳）で比較しています

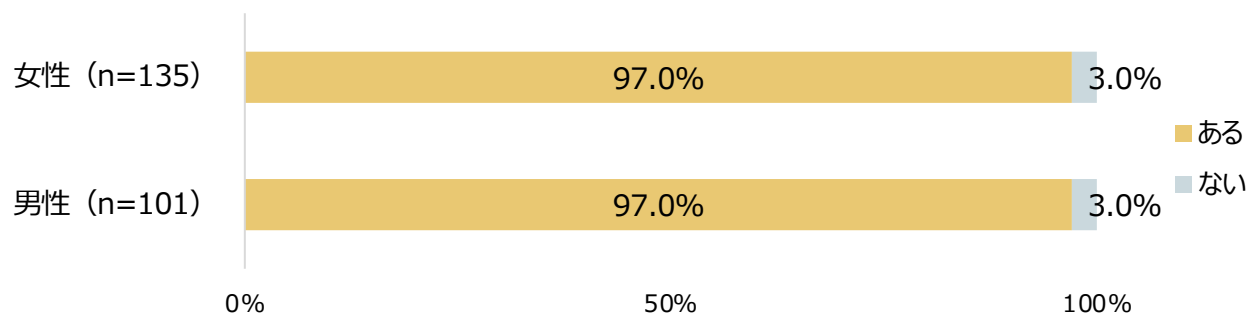
## (1) 自宅のパソコン状況

男性の方が自宅でPCを使用できる人の割合が7.1%高い。



## (2) 自宅のインターネット環境

自宅にインターネットにアクセスできる環境がある人は、男女ともに97%と高い。



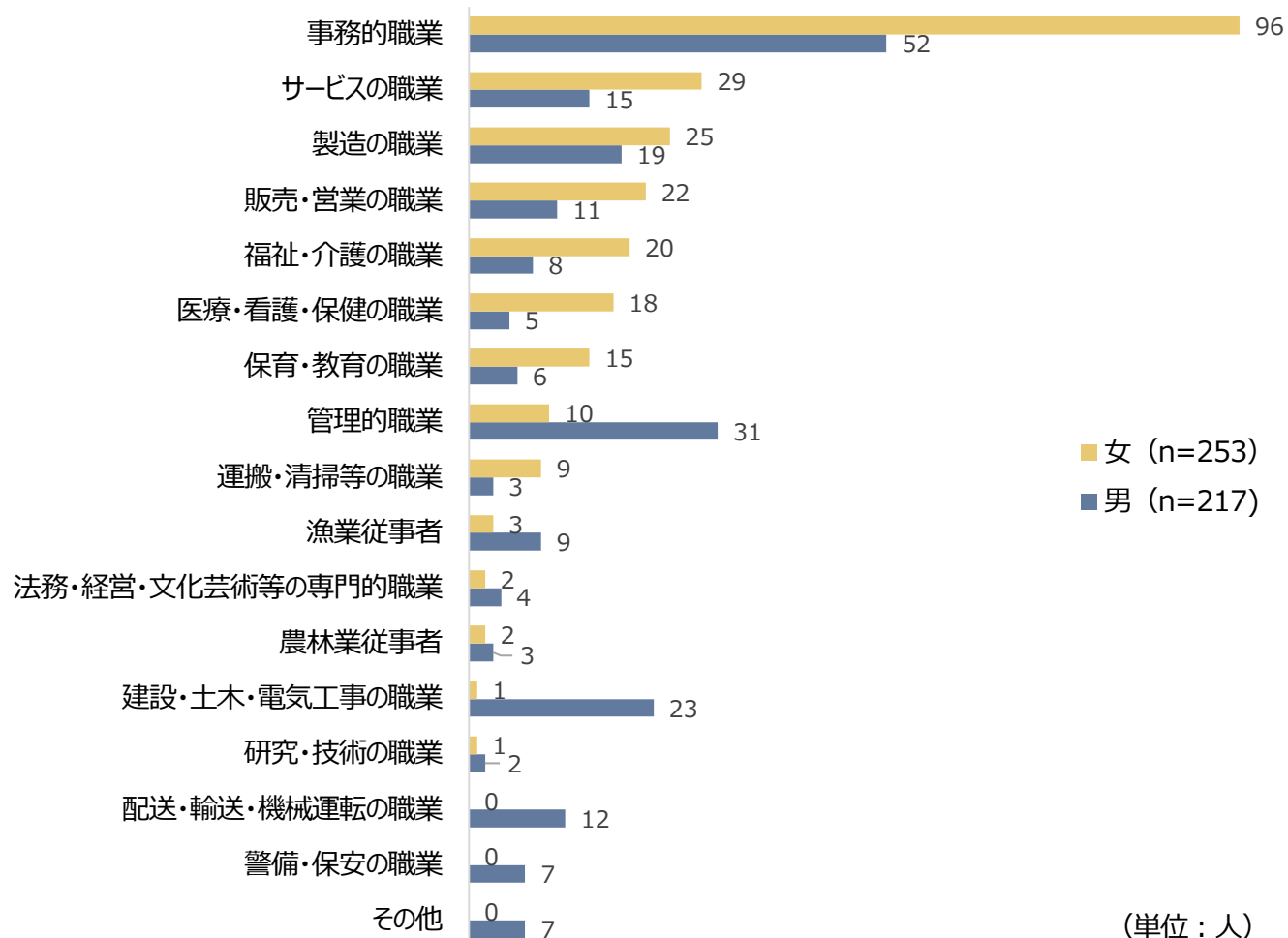
# 参考：地方創生に関するアンケート（一般用） 気仙沼市、令和5年8月

※本調査と同じ対象年齢（18～49歳）で比較しています

## (3) 職種

男性は事務、管理的職業、ついで建築土木電気工事が多い。

女性は事務が突出して多い。



(単位：人)

# 参考：地方創生に関するアンケート（一般用） 気仙沼市、令和5年8月

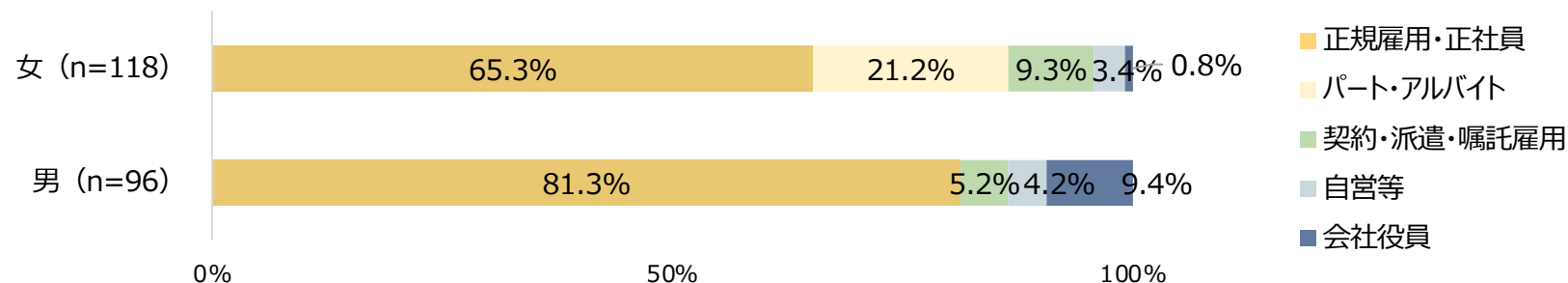
※本調査と同じ対象年齢（18～49歳）で比較しています

## (4) 雇用形態

正規雇用の女性は65.3%であるのに比べて男性は81.3%と差が大きい。

パート・アルバイトの女性が21.2%を占めるのに比べて、男性はパート・アルバイトは0%であった。

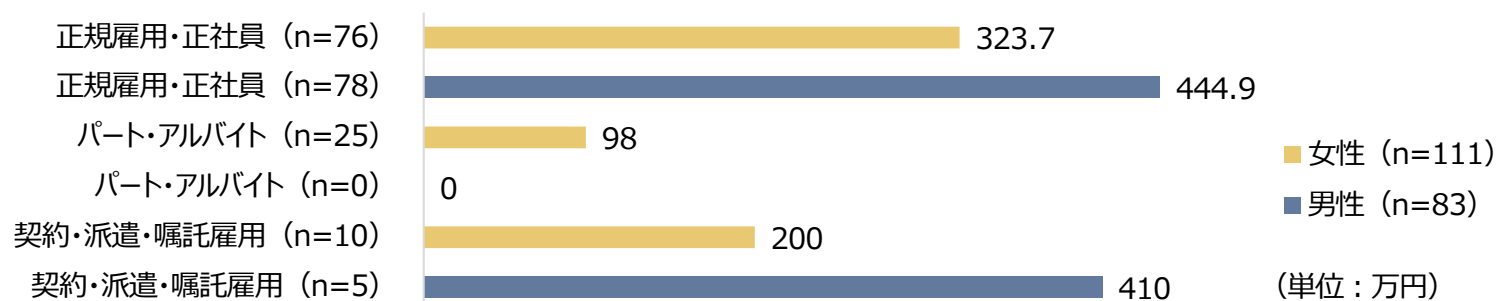
会社役員の男性が9名いたが、女性は1名のみであった。



## (5) 平均年収：雇用形態別

正規雇用は、女性の平均年収は323.7万円、男性は444.9万円と、女性は男性の72.8%に留まる。

契約・派遣・嘱託雇用は、女性の平均年収は200万円、男性は410万円と、女性は男性の48.8%に留まる。





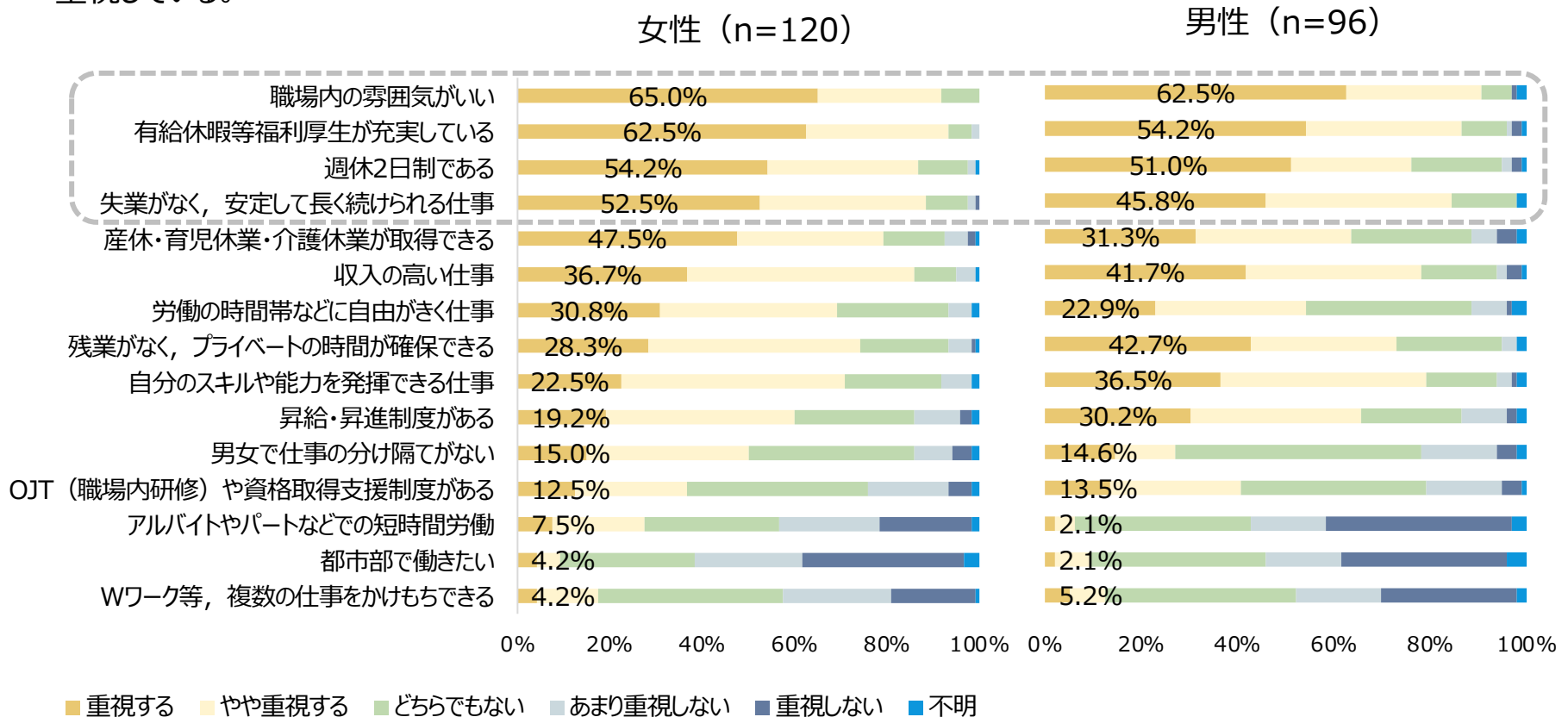
# 参考：地方創生に関するアンケート（一般用） 気仙沼市、令和5年8月

※本調査と同じ対象年齢（18～49歳）で比較しています

## (6) 仕事を選ぶ際に重視すること

上位4項目は、男女ともに、労働する場合の共通のニーズとして一致している。

続いて、女性は育休産休の取得や短時間労働、労働の時間の自由など、子育て中心のニーズが多い一方で、男性は短時間労働は最下位で女性より5%ほど低く、プライベートの時間の確保や自分の能力が発揮できることを重視している。



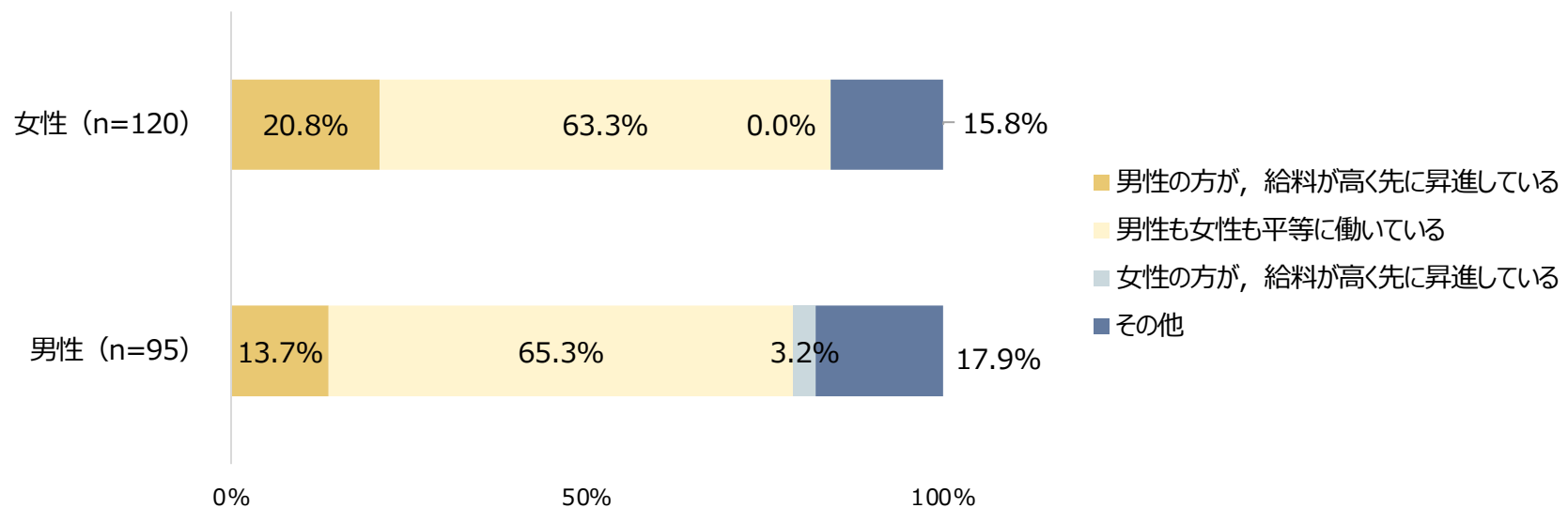
## 参考：地方創生に関するアンケート（一般用） 気仙沼市、令和5年8月

※本調査と同じ対象年齢（18～49歳）で比較しています

### (7) 職場での男性と女性の働き方について

「働き方」については、男女ともに平等と感じている人が6割を占めた。

一方で、女性の約2割は、「男性の方が、給料が高く先に昇進している」と感じている。



# 専門家コメント 本調査の意義と課題ーデータから見えること

**天童睦子** 宮城学院女子大学 一般教育部教授（女性学、教育社会学）

## ➤ はじめに一本調査の意義と課題

気仙沼から新たな女性のエンパワーメントが始まる。「女性の仕事・生活・デジタルスキルに関する調査」はその萌芽をもたらした。

この調査の特徴は、気仙沼市在住の18歳から49歳までの女性全員を対象としており、いわば生産・再生産領域の当事者女性の意識を明らかにするものである。このような地域に根差した「女性とデジタルスキル」に関する本格的調査は未だ多くない。

## ➤ 気仙沼女性データから見えること

本調査の分析結果は、気仙沼に暮らす女性が希望する収入や職種、就労環境の実情を浮き彫りにした。現在のデジタル環境やパソコンスキルでは、回答者の大半が自宅でインターネット接続が可能であり、デジタルやパソコンのスキルアップに興味ありとの回答は7割を超えた。デジタルスキルの基本を身に着けている女性は多く、ICT関連の技能習得への意欲も示された。

つまり、女性たちのデジタル・スキルアップと就労への意欲・関心は高い。それに企業や行政がどう応えるか、また教育・学習機会の創出が課題となる。

本調査では、女性の就労環境、職場環境、ケア環境で気になる点が見えてきた。一つは、賃金、希望する職種の少なさ、職場の人間関係といった「自分らしい働き方の実現」に向けた課題である。もうひとつは、子どもの預け先、高齢者の世話といったケアにかかわる環境の未整備である。たとえば、幼児は祖父母がみってくれるはずとの前提は、移住者家族には無理な条件であり、身近な親族に頼みにくい場合もある。就労とケア保障（ケアのニーズに応える生活環境）は男女ともに労働者の「自分らしい働き方の実現」の両輪である。

# 専門家コメント 本調査の意義と課題ーデータから見えること

**天童睦子** 宮城学院女子大学 一般教育部教授（女性学、教育社会学）

## ➤ 地域女性の声を聴くージェンダー意識と地域の課題

本調査では女性のジェンダー平等意識の高さが示された。「夫は外、妻は家庭」という性別役割分業には4人に3人が否定的であった。一方、「職場で男性のほうが優遇されている」と感じる割合は4割を占め、とくに年齢の高い世代で高めである。また職場の「男女の地位は平等」と感じる割合は、職種による差が見られ、女性の多い職場で「平等」の割合が高い。ジェンダー平等の推進は、働く人の尊厳、職場の信頼関係にもかかわっている。

自由記述では、就労については厳しい現実が浮上する。賃金は安く、賃貸アパートが高い。ICT研修を受けたとして、それが活かせる職がすぐあるか。人間関係の濃さの両義性、「男尊女卑的」慣習に疲れた例も読み取れる。

つまり、今後の企業・行政側の取り組むべき課題は、就労機会・場の創出とともに、職場や地域社会でジェンダー平等を「常識知」にしていくことが鍵となる。

最後に、自由記述では気仙沼の魅力について尋ねた。自然、海の恵み、人のやさしさなど、地元の利点が数多く上げられ、「人情味あふれる気仙沼が大好き」との記述もあった。移住者の記載からは、人が明るい、治安がよい、感じのコミュニティなど、都市部では得難い地域特性に魅力があることも記された。

地域の経済活性化、環境、資源の持続可能性、ひとり一人の尊厳の尊重、その土台にジェンダー平等を位置づけ、地域女性のエンパワーメントに向けた「女性とデジタル」のモデルをこの場所から始めよう。

それは「誰も取り残されない社会」をつくる、世界的課題ともつながっているのである。

〈文献〉天童睦子（2024 近刊）「地方女性とICT就労の課題ー災害女性学の視点」宮城学院女子大学附属キリスト教文化研究所『多民族社会における宗教と文化』No.27.

# 専門家コメント 本調査の意義と課題ーデータから見えること

**永井裕美子** 一般社団法人ポテンシア代表理事、伊藤忠テクノソリューションズ（株）社外取締役

今回の調査の結果から、気仙沼市の女性の「デジタルスキルの習得度」と「スキルアップに対する高い意欲」に、大変感銘を受けました。調査で、「デジタルやパソコンのスキルアップに興味がある」と答えた方が全体の約7割にもおよび、このうちの約9割はすでにエクセルの操作などのデジタルスキルの基本を習得されています。そして今後学びたい内容についても6割が「ウェブデザイン系」、4割が「プログラミング」や「ITパスポート取得」と、今世の中に必要とされている高いデジタルスキルの獲得に興味のある方が多くいらっしゃるということがわかりました。これは「女性はITが苦手」といった通念を大きく覆す結果であり、「女性のためのはじめてのパソコン」といったような初心者向けの講座だけでは、気仙沼市の女性のニーズを充分満たすことができないということが浮き彫りになりました。

一方、現状の賃金についての厳しい状況も明らかになりました。今回の調査における気仙沼女性の賃金平均年収は263.5万円と国税庁の「令和4年分民間給与実態調査」における女性の平均年収314万円を大きく下回ります。デジタルやパソコンのスキルアップに興味がある理由の約7割が「仕事に活かしたい」「収入アップ」「求職」「転職」など仕事や収入に関する項目であることから、スキルを身につけて賃金を上げたいという女性達の切実な思いが伝わってきます。

近年、日本における人手不足は年々深刻化が進み、パーソル総合研究所「労働市場の未来推計」（2023）によると、2030年には7,073万人の労働需要に対し6,429万人の労働供給しか見込めず、644万人の人手不足となると推測されています。また、日本社会におけるデジタル化はさらに加速されることが見込まれ、経済産業省の調査によると、2030年には最大でIT人材は79万人不足になるといわれています。DXが進む状況における人材のスキルのアンマッチも日本の労働市場における課題です。

## 専門家コメント 本調査の意義と課題ーデータから見えること

**永井裕美子** 一般社団法人ポテンシア代表理事、伊藤忠テクノソリューションズ（株）社外取締役

今後あらゆる分野においてデジタルスキルを活用することが求められるであろう状況において、今地方の女性があらたなデジタルスキルを学ぶことは、キャリアを継続的に安定させ、賃金をアップさせていくための現実的かつ有効な手段であると考えます。デジタル関連の仕事は、時間や場所を選ばないことが多いといわれており、在宅・リモート勤務が可能になれば、新たにより多くの女性が労働市場へ参入できるようになり、また短縮された移動時間が労働時間に転嫁されることによる労働参加率向上が、人手不足解消の一助になりうるのではないかと考えます。

基本的なデジタルスキルの素地をもち更なるスキルの獲得を目指すモチベーションの高い気仙沼の女性達が、今後デジタルスキルを学ぶことにより、新たなスキルと働き方を獲得できるよう、官庁、企業、NPOが連携してサポートをしていくことが大変重要です。そして、こうした取り組みが気仙沼発日本における新しいモデルとなることを大いに期待しています。

「気仙沼市で暮らす女性の仕事・生活・デジタルスキルに関する調査」 最終報告書  
2024年3月29日

調査主体：

NPO法人ウィメンズアイ、気仙沼市

調査アドバイザー：

天童睦子 宮城学院女子大学 一般教育部 教授

永井裕美子 一般社団法人ポテンシア 代表理事、伊藤忠テクノソリューションズ（株） 社外取締役

調査集計・分析・レポート作成：

石本めぐみ（NPO法人ウィメンズアイ 代表理事）

五十嵐光（NPO法人ウィメンズアイ 事務局長）

米倉京香（NPO法人ウィメンズアイ 調査プロジェクトリーダー）

集計協力・補助：

森坂太一（東北大学大学院修士課程）

調査実施・報告書作成にあたり、FONDATION CHANELより、助成をいただきました。  
また、気仙沼市産業戦略課より多大なる協力とアドバイスをいただきました。